

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-96	高等学校	地理歴史科	日本史探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		

1. 編修の基本方針

教育基本法第2条第1号「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。」に留意した点

- * 基本的な日本の歴史の流れを把握する点に留意し、できる限り本文を平易に叙述した。さらに、図版や囲み記事などを設け、「幅広い知識と教養を身に付ける」ことができるよう留意した。
- * 学習指導要領に沿って、各章の導入と末尾に問いを設け、各時代の特色を探究するための学習の方向性を示した。また、本文などを読む際に、事象の推移や展開、意味や意義、解釈や画期を考察し表現できるように、「Q(問い)」を適宜設け、「真理を求める態度を養う」ことができるように留意した。

教育基本法第2条第2号「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。」に留意した点

- * 「歴史資料と原始・古代の展望」「歴史資料と中世の展望」「歴史資料と近世の展望」「歴史資料と近代・現代の展望」では、生徒が興味を持って資料から情報を収集し、読み取る技能を身につけることができるよう、扱う資料や叙述を工夫し、一連の学習によって「創造性を培えるよう」留意した。
- * 「Topic」や「読みとき」などの囲み記事を設け、生徒の興味・関心を引き出すとともに、多面的・多角的に考察する学習を通して、「自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと」ができるよう留意した。

教育基本法第2条第3号「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。」に留意した点

- * 「現代日本の課題の探究」では、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地域社会の変容と文化の継承に関する主題を設定し、作業的で具体的な体験を伴う学習を重視した方法を例示することで、「主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」ができるよう留意した。

教育基本法第2条第4号「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。」に留意した点

- * 特集ページ「周辺地域を学ぶ」を設けて、地域社会の生活基盤、生活様式や人々の考え方、自然環境、地理的条件などをふまえて考察できるよう工夫し、「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと」ができるよう留意した。

教育基本法第2条第5号「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」に留意した点

- *全体として、歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史との関連付けを心がけ、国や地域の違いやその背景について気づかせるように配慮した。
- *伝統や文化を視覚的に理解するための図版を豊富に取り上げ、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度」を養うことができるように留意した。
- *広い視野に立ち、国際社会に主体的に生きる資質・能力を育成することができるような叙述を全体的に心がけ、「他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度」を養うことができるよう留意した。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第Ⅰ部 原始・古代	*部の冒頭では、原始・古代の展開を世界の歴史と関連付けて概観した年表を掲載した(第1号)。	p. 5
第1章 日本文化のあけぼの	*また、伝統と文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう、部に関連する世界遺産の写真を掲載した(第5号)。	
1 日本文化の始まり		
2 農耕の開始		
●歴史資料と原始・古代の展望		
①古代社会と海外との交流	*全体として、公正な立場から客観的に叙述した(第3号)。	p. 6～56
②木簡から古代国家をさぐる	*また、日本の歴史が、さまざまな地域や人々との交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙述した(第1号)。	
第2章 古墳とヤマト政権		
1 古墳文化の展開	*第1章では、地球環境の変化が人間の生活に及ぼす影響について記述し、生命や環境への関心が高まるように留意した(第4号)。	p. 6～15
2 飛鳥の朝廷		
第3章 律令国家の形成		
1 律令国家への道	*「歴史資料と原始・古代の展望」では、周辺諸国との交流を示す文字資料や、古代の木簡を取り上げ、歴史資料を活用して多角的に考察し、仮説を表現するための手段や方法を例示した(第2号)。	p. 16～19
2 平城京の時代		
3 律令国家の文化		
4 律令国家の変容		
第4章 貴族政治の展開		
1 摂関政治	*文化史は、時代背景や周辺諸国との交流と関連付けて叙述するとともに、伝統文化への理解や親しみが深まるよう、今日に伝わる文化財の図版を積極的に取り上げた(第5号)。	p. 7～13、20～
2 国風文化		21、23、27～28、
3 荘園の発達と武士団の成長		38～41、44～
		46、52～54
	*「古代の南九州一隼人一」など地域を学ぶための特集ページを設け、人間と自然環境・地理的条件の関係から歴史を考察することができるよう工夫した(第4号)。	p. 47

<p>第Ⅱ部 中世</p> <p>第5章 院政と武士の進出</p> <p>1 院政の始まり</p> <p>2 院政と平氏政権</p> <p>●歴史資料と中世の展望</p> <p>絵画から中世社会をさぐる</p> <p>第6章 武家政権の成立</p> <p>1 鎌倉幕府の成立と展開</p> <p>2 モンゴル襲来と幕府の衰退</p> <p>3 鎌倉文化</p> <p>第7章 武家社会の成長</p> <p>1 室町幕府の成立</p> <p>2 下剋上の社会</p> <p>3 室町文化</p> <p>4 戦国の動乱</p>	<p>*部の冒頭で、中世の展開を世界の歴史と関連付けて概観した年表を掲載した(第1号)。 また、伝統と文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう、部に関連する世界遺産の写真を掲載した(第5号)。</p> <p>*全体として、公正な立場から客観的に叙述した(第3号)。また、日本の歴史が、さまざまな地域や人々との交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙述した(第1号)。</p> <p>*第5章では、古代から中世への変化に留意してその転換を記述し、中世という時代を通観することができるような構成につとめた(第1号)。</p> <p>*「歴史資料と中世の展望」では、時代の推移を比較できる絵画資料を取り上げ、歴史資料を活用して多角的に考察し、仮説を表現するための手段や方法を例示した(第2号)。</p> <p>*文化史は、時代背景や周辺諸国との交流と関連付けて叙述するとともに、伝統文化への理解や親しみが深まるよう、今日に伝わる文化財の図版を積極的に取り上げた(第5号)。</p> <p>*「歴史資料としての文化財」など、伝統と文化を尊重する態度をはぐくむと同時に、理解や親しみが深まるよう、身近な文化財を取り上げた(第5号)。</p> <p>*「東北と奥州藤原氏」「琉球王国」などの地域を学ぶための特集ページを設け、人間と自然環境・地理的条件の関係から歴史を考察することができるよう工夫した(第4号)。</p>	<p>p. 57</p> <p>p. 58～106</p> <p>p. 58～67</p> <p>p. 68～71</p> <p>p. 64～65、82～85、98～102</p> <p>p. 67</p> <p>p. 66、106</p>
<p>第Ⅲ部 近世</p> <p>第8章 近世の幕開け</p> <p>1 天下人の登場</p> <p>2 豊臣政権と桃山文化</p>	<p>*部の冒頭で、近世の展開を世界の歴史と関連付けて概観した年表を掲載した(第1号)。 また、伝統と文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう、部に関連する世界遺産の写真を掲載した(第5号)。</p>	<p>p. 107</p>

<p>●歴史資料と近世の展望 朝鮮通信使</p> <p>第9章 幕藩体制の成立と展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 江戸幕府の成立 2 江戸初期の外交と文化 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化 <p>第10章 幕藩体制の動揺</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幕政の改革と宝暦・天明期の文化 2 江戸幕府の衰退 3 化政文化 	<p>*全体として、公正な立場から客観的に叙述した(第3号)。また、日本の歴史が、さまざまな地域や人々との交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙述した(第1号)。</p> <p>*第8章では、中世から近世への変化に留意してその転換を記述し、近世という時代を通観することができるような構成につとめた(第1号)。</p> <p>*「歴史資料と近世の展望」では、様々な立場で記録された朝鮮通信使についての資料を取り上げ、歴史資料を活用して多角的に考察し、仮説を表現するための手段や方法を例示した(第2号)。</p> <p>*文化史は、時代背景や周辺諸国との交流と関連付けて叙述するとともに、伝統文化への理解や親しみが深まるよう、今日に伝わる文化財の図版を積極的に取り上げた(第5号)。</p> <p>*「災害と文化財」「地域の文化財から歴史を探究しよう」など、伝統と文化を尊重する態度をはぐくむと同時に、理解や親しみが深まるよう身近な文化財を取り上げた(第5号)。</p> <p>*「アイヌと和人」など、地域を学ぶための特集ページを設け、人間と自然環境・地理的条件の関係から歴史を考察することができるよう工夫した(第4号)。</p>	<p>p. 108～162</p> <p>p. 108～116</p> <p>p. 117～120</p> <p>p. 114～116、 132～133、142 ～145、150～ 152、159～161</p> <p>p. 121、162</p> <p>p. 146</p>
<p>第IV部 近代・現代</p> <p>第11章 近世から近代へ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開国とその影響 2 幕府の滅亡と新政府の発足 <p>●歴史資料と近代・現代の展望</p> <ol style="list-style-type: none"> ①議会と選挙権 ②生糸の生産 	<p>*部の冒頭で、近代・現代の展開を世界の歴史と関連付けて概観した年表を掲載した(第1号)。また、伝統と文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう、部に関連する世界遺産の写真を掲載した(第5号)。</p> <p>*全体として、公正な立場から客観的に叙述した(第3号)。また、日本の歴史が、さまざまな地域や人々との交流の中で、その影響</p>	<p>p. 163</p> <p>p. 164～273</p>

<p>第12章 近代国家の成立</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 明治維新 2 立憲国家の成立 	<p>を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙述した（第1号）。</p> <p>*第11章では、近世から近代への変化に留意してその転換を記述し、近代という時代を通観することができるような構成につとめた（第1号）。</p>	<p>p. 164～173</p>
<p>第13章 近代国家の展開と国際関係</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大陸政策の展開 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制 	<p>*「歴史資料と近代・現代の展望」では、「議会と選挙権」「生糸の生産」に関する歴史資料を活用して多角的に考察し、仮説を表現するための手段や方法を例示した（第2号）。</p>	<p>p. 174～177</p>
<p>第14章 近代の産業と生活</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 近代産業の発展 2 近代の文化 3 市民生活の変容と大衆文化 	<p>*文化史は、時代背景や周辺諸国との交流と関連付けて叙述するとともに、伝統文化への理解や親しみが深まるよう、今日に伝わる文化財の図版を積極的に取り上げた（第5号）。</p>	<p>p. 218～227、258、266</p>
<p>第15章 恐慌と第二次世界大戦</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦 	<p>*「学芸員体験で歴史を語る当事者になろう」など、伝統と文化を尊重する態度をはぐくむと同時に、理解や親しみが深まるよう、身近な文化財を取り上げた（第5号）。</p>	<p>p. 191</p>
<p>第16章 現代の世界と日本</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 占領下の改革と主権の回復 2 55年体制と高度経済成長 3 現代の情勢 <p>現代日本の課題の探究 地域社会や身のまわりから考えよう</p>	<p>*「現代日本の課題の探究」では、主体的に地域社会の文化の継承や形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう工夫した（第3号）。</p>	<p>p. 274～279</p>

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- * 中学校や歴史総合における学習の成果を活用できるよう、問いや叙述を工夫した。とくに、歴史総合の学習を発展させられるよう、近代・現代の構成を工夫した。
- * 地図・グラフ類の作成においては、色覚の個人差を問わず、多くの生徒に見やすいようにカラーユニバーサルデザインに配慮し、色覚特性のある生徒にも読み取りやすい表現方法を心掛けた。
- * 本文やキャプションで使用した文字のフォントについては、文字のかたちがわかりやすく、読み間違いがおこりにくいユニバーサルデザインに対応した「UD書体」を採用した。
- * インターネット上に教科書ポータルサイトを設け、教科書に掲載された史料の現代語訳、重要年代と事項を確認できる年表、文字資料や動画・画像など歴史資料の一覧、を参照できるようにして、より深い学びにつなげられるようにした。
- * 学習上の便宜を考慮して、図版に番号を付し、関連する本文にも図版番号を示した。
- * 本文の流れを重視し、補足的な解説は側注で扱った。また、ふりがなや参照ページなども丁寧に付した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-96	高等学校	地理歴史科	日本史探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

特色① 日本史の大きな流れを把握できる教科書

- *標準単位数3単位で履修されることを前提として編修し、基本的な日本史の流れをしっかりと把握する点に主眼をおいて、細部にとらわれず平易な叙述を心がけた。その際、歴史の展開に関わる諸事象について、意味や意義、伝統と文化の特色、世界史との関連などを適宜考察できるよう工夫した。
- *視覚的な理解を深め、興味を持って取り組めるよう、図版や資料を豊富に掲載した。また、図版の作成にあたっては、見やすさ・わかりやすさに配慮した。
- *図版・資料には節ごとに番号を付し、本文の該当箇所にも図版番号を示して、学習上の便宜をはかった。
- *本文の流れを重視し、補足的な解説は側注で扱った。また、ふりがなや参照ページなども丁寧に付した。

特色② 歴史的な理解や考察を促す様々な問いや資料

- *学習時の手がかりとして、段階的に問いを設けた。
 - ・各章の導入に章全体にわたる「問い」を配置し、時代の特色を探究するための方向性を示した。
 - ・各章の末に章のまとめの「問い」を配置した。各部のはじめの章(1章・5章・8章・11章)の章末の「問い」では、時代の転換を理解し、生徒が「時代を通観する問い」を立てるための指針となるように配慮した。その他の章の章末の「問い」では、根拠に基づいて「事象の意味や意義、関係性などを考察する」こと、あるいは「諸事象の解釈や画期を表現する」ことができるよう工夫した。
 - ・該当する本文の近くに、「Q(問い)」を適宜設け、学習の要点を捉えやすくするとともに、事象の「推移や展開」「意味や意義、関係性」「解釈や画期」を考察し、表現できるよう留意した。
- *「歴史資料と原始・古代の展望」「歴史資料と中世の展望」「歴史資料と近世の展望」「歴史資料と近代・現代の展望」では、文字資料や絵画資料、遺物、統計・グラフ・表など多様な史資料を活用し、生徒自身が歴史を考察する力を養えるようにした。

- * 歴史総合の学習をさらに発展させられるよう、扱う範囲が重複する「第Ⅳ部 近代・現代」の構成を工夫するとともに、多面的な読み解きの活動ができるような図版・資料を取り上げて、歴史総合と異なる視点で歴史を捉えられるように配慮した。
- * 史料には2次元コードを付し、現代語訳を参照できるようにすることで、生徒の理解を助け、読み下し文と対応させて、読み解く技能も身につけられるよう工夫した。
- * 本文の内容に関連する動画を視聴できるよう、適宜2次元コードを付し、興味・関心を高めるようにした。絵画資料については、拡大図や、教科書に掲載した範囲の周辺、関連する画像も閲覧できるようにし、より深い学びにつなげられるよう工夫した。
- * 「読みとき」では、写真・文字資料・グラフ・地図などを用いて、図の読み取りや、複数の資料の比較、数値の変化などに着目し、解釈し表現する学習を通して、より深い学びにつなげられるよう工夫した。
- * 各部の扉には、各時代を世界史と関連付けて概観した年表を掲載し、さらに各時代に関連する「世界遺産」の写真も用いて、伝統と文化を尊重し、国際社会に主体的に生きる態度をはぐくむことができるよう配慮した。

特色③ 日本史への関心を高め、考察し、表現する力を身につける教科書

- * 「Topic」を75点設け、本文では取り上げなかった人物や事件などのエピソードを掲載し、歴史への興味・関心が高まるよう工夫した。
- * 特集ページ「周辺地域を学ぶ」を4テーマ設け、地理的条件と歴史的な諸事象の関係、地域性の比較に関わる視点、現在とのつながりに着目して、考察できるよう工夫した。
- * 「身近な文化財をまもり未来につなげること」を、4テーマ設け、日本の伝統と文化を尊重する態度をはぐくむとともに、博物館・図書館・資料館などの果たす役割に着目し、文化財保護への関心を高め、当事者意識をもって実践的な学習ができるよう工夫した。
- * 「現代日本の課題の探究」では、「東京の祭礼」「選挙」「果物生産と貿易」を具体例として取り上げ、伝統や文化の継承と創造、社会や集団と個人、世界のなかの日本について、諸資料を用いて考察するとともに、例えば「東京の祭礼」については、伝統文化の意味や役割を考察し、維持・継承に向け主体的に社会に参画する活動を身につけられるようにするなど工夫した。

そのほかの工夫

- * 表見返しには「古代の行政区画」、表見返し裏には「干支、時刻と方位、度量衡」、裏見返しには「政党・政派の変遷」を設け、学習の便宜をはかった。
- * 巻末には、詳細な「日本史年表」を付し、本文の叙述を補うとともに、歴史の流れを捉えやすいよう工夫した。また、充実した「索引」を設け、学習の便宜をはかった。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第Ⅰ部 原始・古代	A 原始・古代の日本と東アジア	(p. 5～56)	
第1章 日本文化のあけぼの 1 日本文化の始まり 2 農耕の開始	(1) 黎明期の日本列島と歴史的環境	p. 6～15	3
●歴史資料と原始・古代の展望 ①古代社会と海外との交流 ②木簡から古代国家を探る	(2) 歴史資料と原始・古代の展望	p. 16～19	2
第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷	(3) 古代の国家・社会の展望と画期(歴史の解釈、説明、論述)	p. 20～28	3
第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容		p. 29～47	6
第4章 貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化 3 荘園の発達と武士団の成長		p. 48～56	4
第Ⅱ部 中世	B 中世の日本と世界	(p. 57～106)	
第5章 院政と武士の進出 1 院政の始まり 2 院政と平氏政権	(1) 中世への転換と歴史的環境	p. 58～67	3
●歴史資料と中世の展望 絵画から中世社会を探る	(2) 歴史資料と中世の展望	p. 68～71	2
第6章 武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立と展開 2 モンゴル襲来と幕府の衰退 3 鎌倉文化	(3) 中世の国家・社会の展望と画期(歴史の解釈、説明、論述)	p. 72～85	6
第7章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立		p. 86～106	8

2 下剋上の社会 3 室町文化 4 戦国の動乱			
第Ⅲ部 近世	C 近世の日本と世界	(p. 107～162)	
第8章 近世の幕開け 1 天下人の登場 2 豊臣政権と桃山文化	(1) 近世への転換と歴史的環境	p. 108～116、 121	3
●歴史資料と近世の展望 朝鮮通信使	(2) 歴史資料と近世の展望	p. 117～120	2
第9章 幕藩体制の成立と展開 1 江戸幕府の成立 2 江戸初期の外交と文化 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化	(3) 近世の国家・社会の展望と画期(歴史の解釈、説明、論述)	p. 122～146	11
第10章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革と宝暦・天明期の文化 2 江戸幕府の衰退 3 化政文化		p. 147～162	8
第Ⅳ部 近代・現代	D 近現代の地域・日本と世界	(p. 163～273)	
第11章 近世から近代へ 1 開国とその影響 2 幕府の滅亡と新政府の発足	(1) 近代への転換と歴史的環境	p. 164～p. 173	3
●歴史資料と近代・現代の展望 ①議会と選挙権 ②生糸の生産	(2) 歴史資料と近代の展望	p. 174～177	2
第12章 近代国家の成立 1 明治維新 2 立憲国家の成立	(3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造	p. 178～191	5
第13章 近代国家の展開と国際関係 1 大陸政策の展開 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制		p. 192～211	7

第14章 近代の産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代の文化 3 市民生活の変容と大衆文化		p. 212～227	6
第15章 恐慌と第二次世界大戦 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦		p. 228～247	7
第16章 現代の世界と日本 1 占領下の改革と主権の回復 2 55年体制と高度経済成長 3 現代の情勢		p. 248～273	10
現代日本の課題の探究 地域社会や身のまわりから考えよう	(4) 現代の日本の課題の探究	p. 274～279	2
予備			2
		計	105

常用漢字以外の使用漢字一覧表

尖頭器 (p. 7)	槍 (p. 7)	捏造 (p. 8)	銛 (p. 8)	火焰 (p. 9)	竪穴 (p. 9)	馬蹄 (p. 10)	櫛 (p. 10)	鏃 (p. 10)	錫 (p. 11)
銅鐸 (p. 11)	石斧 (p. 11)	壺 (p. 11)	甕 (p. 11)	畦 (p. 12)	竪杵 (p. 12)	鋏 (p. 12)	鋤 (p. 12)	播く (p. 12)	粃 (p. 12)
灌溉 (p. 12)	環濠 (p. 13)	銅戈 (p. 13)	鈕 (p. 14)	印綬 (p. 14)	巫女 (p. 15)	埴輪 (p. 17)	瓜 (p. 18)	捺印 (p. 18)	雜鮓 (p. 18)
鮎 (p. 18)	粕漬け (p. 19)	贄 (p. 19)	甲冑 (p. 21)	新嘗 (p. 24)	祓 (p. 24)	禊 (p. 24)	祭祀 (p. 25)	甥 (p. 26)	厨子 (p. 28)
菩薩 (p. 28)	弥勒 (p. 28)	刺繡 (p. 28)	半跏思惟 (p. 28)	釈迦 (p. 28)	急峻 (p. 30)	平坦 (p. 30)	重祚 (p. 30)	神祇官 (p. 31)	公卿 (p. 31)
奴婢 (p. 32)	杖 (p. 32)	笞 (p. 32)	国衙 (p. 32)	甌 (p. 33)	雜徭 (p. 33)	賤民 (p. 33)	蝦夷 (p. 35)	伽藍 (p. 35)	隼人 (p. 35)
寵愛 (p. 36)	飢饉 (p. 36)	裳階 (p. 38)	鍍金 (p. 38)	蔭位 (p. 38)	六臂 (p. 40)	俱舍 (p. 40)	螺鈿 (p. 41)	琵琶 (p. 41)	体軀 (p. 41)
紫檀 (p. 41)	冥想 (p. 44)	祈禱 (p. 45)	八幡神 (p. 45)	曼荼羅 (p. 46)	吠之声 (p. 47)	崇り (p. 49)	田堵 (p. 50)	遙任 (p. 50)	鳳凰 (p. 53)
内刳り (p. 53)	阿弥陀 (p. 53)	袍 (p. 54)	袿 (p. 54)	蒔絵 (p. 54)	檜皮葺 (p. 54)	垂迹 (p. 54)	棟梁 (p. 56)	晒し (p. 56)	榜示 (p. 60)
北嶺 (p. 60)	雁 (p. 61)	袈裟 (p. 61)	神輿 (p. 61)	蛙 (p. 64)	兔 (p. 64)	鉤鼻 (p. 64)	俘囚 (p. 66)	山鉾 (p. 70)	扮装 (p. 71)
草鞋 (p. 71)	謀叛 (p. 73)	笠懸 (p. 77)	佃 (p. 77)	流鏑馬 (p. 77)	犁 (p. 80)	烏帽子 (p. 81)	袴 (p. 81)	鉦 (p. 83)	坐禅 (p. 83)
吽形 (p. 84)	兜 (p. 85)	組紐 (p. 85)	一揆 (p. 86)	下剋上 (p. 86)	五鈷杵 (p. 86)	諱 (p. 87)	論旨 (p. 87)	狼藉 (p. 88)	擾乱 (p. 88)
兵糧 (p. 89)	牽制 (p. 90)	倭寇 (p. 91)	惣掟 (p. 93)	連雀 (p. 96)	荏胡麻 (p. 97)	廻船 (p. 97)	撰銭 (p. 97)	闊歩 (p. 98)	鮎 (p. 99)
瓢箪 (p. 99)	襖絵 (p. 100)	佗茶 (p. 100)	燭台 (p. 101)	喧嘩 (p. 104)	按司 (p. 106)	枺 (p. 112)	太閤 (p. 112)	金箔 (p. 114)	剛毅 (p. 115)

屏風	艘	上洛	庄屋	水呑	綴った	真鍮	蘭学	草庵	牢人
(p. 115)	(p. 118)	(p. 124)	(p. 126)	(p. 126)	(p. 128)	(p. 130)	(p. 131)	(p. 132)	(p. 133)
仇	拔擢	憐み	棹	穢れ	千石筵	蜜柑	葡萄	藺草	栗
(p. 134)	(p. 134)	(p. 134)	(p. 135)	(p. 135)	(p. 136)	(p. 136)	(p. 136)	(p. 136)	(p. 136)
厩肥	蕎麦	稗	糞尿	唐箕	敷藁	楮	干鰯	粕	鯉
(p. 136)	(p. 136)	(p. 136)	(p. 136)	(p. 136)	(p. 136)	(p. 137)	(p. 137)	(p. 137)	(p. 137)
糠	鯛	蛋白源	鯨	醤油	樽	菱垣	剃髪	燕子花	鷹
(p. 137)	(p. 137)	(p. 137)	(p. 137)	(p. 138)	(p. 139)	(p. 139)	(p. 142)	(p. 144)	(p. 145)
溜まり	南鐮	洒落本	紙漉	蛤粉	棄捐令	莫大	蠟	櫓	庚申講
(p. 149)	(p. 149)	(p. 151)	(p. 153)	(p. 153)	(p. 153)	(p. 158)	(p. 158)	(p. 161)	(p. 161)
盂蘭盆	駕籠	攘夷	御簾	五榜の揭示	竣工	糊	撚り	煉瓦	俸禄
(p. 161)	(p. 169)	(p. 169)	(p. 172)	(p. 172)	(p. 175)	(p. 176)	(p. 176)	(p. 176)	(p. 178)
讒謗律	欽定	臥薪	栗	兌換	悲愴	吼える	柏	蟹	耽美
(p. 186)	(p. 188)	(p. 195)	(p. 198)	(p. 213)	(p. 220)	(p. 221)	(p. 221)	(p. 226)	(p. 226)
急先鋒	挺身隊	防空壕	膠着	噂	鳳輦	凱陣	曳き物		
(p. 228)	(p. 245)	(p. 253)	(p. 256)	(p. 267)	(p. 274)	(p. 275)	(p. 275)		

* 地名・人名を含む固有名詞、地図中・資料中の語については、省略しました。

出典一覧表

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
表見返し	古代の行政区	地図						著者作成
表見返し裏	千支	表						著者作成
表見返し裏	時刻と方位	図						著者作成
表見返し裏	度量衡	図						著者作成
裏見返し	政党・政派の変遷	図						著者作成
2-4	唐船・南蛮船図屏風(右隻)	写真						九州国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
5	年代表	表						著者作成
5	沖ノ島(上)	写真						「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会提供
5	宗像大社辺津宮	写真						「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会提供
6	人類の進化と地質年代	図						著者作成
7	2万年前の日本列島	地図	『大系日本の歴史1 日本人の誕生』	21	佐原真	小学館	1987	左記出典をもとに著者作成
7	相沢忠洋が発見した黒曜石の槍先形石器	写真						岩宿博物館蔵
7	岩宿遺跡の関東ローム層断面	図	『日本史総合図録 増補版』	5	笹山晴生ほか編	山川出版社	1994	
7	旧石器時代の打製石器 ①打製石斧	写真						明治大学博物館蔵
7	旧石器時代の打製石器 ②ナイフ形石器	写真						岡山大学考古学研究室蔵
7	旧石器時代の打製石器 ③細石刃	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
8	縄文時代の道具 ①石の鏃	写真						群馬県立歴史博物館蔵
8	縄文時代の道具 ②石の鏃	写真						群馬県立歴史博物館蔵
8	縄文時代の道具 ③磨製石斧	写真						群馬県立歴史博物館蔵
8	縄文時代の道具 ④銚	写真						東北大学考古学研究室蔵
8	縄文時代の道具 ⑤釣針	写真						東北大学考古学研究室蔵
8	縄文時代の道具 ⑥石皿とすり石	写真						高山市教育委員会蔵
9	縄文土器 ①丸底深鉢 草創期	写真						國學院大學博物館蔵
9	縄文土器 ②深鉢 早期	写真						市立函館博物館蔵
9	縄文土器 ③深鉢 前期	写真						南山大学人類学博物館蔵
9	縄文土器 ④深鉢 中期	写真						十日町市博物館蔵
9	縄文土器 ⑤深鉢 後期	写真						京都大学総合博物館蔵、Kodansha/アフロ提供
9	縄文土器 ⑥深鉢 晩期	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
9	三内丸山遺跡	写真						三内丸山遺跡センター蔵
9	縄文カレンダー	図	『縄文人の世界』	111	小林達雄	朝日新聞社	1996	左記出典をもとに著者作成
10	貝塚(千葉県貝の花貝塚)	地図	『貝の花貝塚』		八幡一郎ほか	松戸市教育委員会	1973	左記出典をもとに著者作成
10	縄文時代のおもな遺跡と黒曜石の交易圏	地図	「黒曜石、サヌカイト製石器の産地推定による古文化交流の研究」『古文化財の自然科学的研究』		藁科哲男ほか	同朋舎出版	1984	左記出典などをもとに著者作成
10	漆塗りの櫛	写真						桶川市歴史民俗資料館蔵
10	土偶	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
10	縄文時代の葬法	写真						浜松市博物館提供
11	弥生時代のおもな遺跡	地図						著者作成
11	弥生土器	写真						京都大学総合博物館蔵
12	弥生時代前期の水田跡	写真						高知県立埋蔵文化財センター蔵
12	石包丁	写真						福岡市埋蔵文化財センター蔵
12	石包丁による穂首刈り	図	『図説 山形県史』	34	山形県	山形県	1988	左記出典をもとに著者作成
12	木製の農具	写真						佐賀県提供
12	脱穀する人(銅鐸絵画)	写真						神戸市立博物館蔵
12	魚をとる人(銅鐸絵画)	写真						神戸市立博物館蔵

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
12	高床倉庫(銅鐸絵画)	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
13	甕棺墓	写真						福岡市提供
13	吉野ヶ里遺跡	写真						佐賀県提供
13	弥生時代後期の青銅器 ①広形銅矛	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
13	弥生時代後期の青銅器 ②中広形銅戈	写真						佐賀県提供
13	弥生時代後期の青銅器 ③銅鐸	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
13	弥生時代後期の青銅器とその分布	地図						著者作成
14	『漢書』地理志	史料	『漢書』地理志					
14	『後漢書』東夷伝	史料	『後漢書』東夷伝					
14	金印(印面)	写真						福岡市博物館蔵、画像提供:福岡市博物館/DNPartcom
14	金印	写真						福岡市博物館蔵、画像提供:福岡市博物館/DNPartcom
14	3世紀の東アジア	地図						著者作成
15	『魏志』倭人伝	史料	『魏志』倭人伝					
16	『魏志』倭人伝	写真	『百衲本二十四史』三國志			商務印書館	1931	
16	『宋書』倭国伝	写真	『百衲本二十四史』宋書			商務印書館	1933	
16	広開土王碑の拓本	写真						東京国立博物館蔵、Image:TNM Image Archives
17	稲荷山古墳鉄剣の銘文	写真						国(文化庁保管)、埼玉県立さきたま史跡の博物館提供
17	江田船山古墳鉄刀の銘文	写真						東京国立博物館蔵、Image:TNM Image Archives
17	江田船山古墳の副葬品	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
17	岩戸山古墳の石人	写真						八女市教育委員会(八女市岩戸山歴史文化交流館)蔵
18	長屋王家木簡1(表) 山背	写真						奈良文化財研究所蔵、 ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
18	長屋王家木簡1(裏) 和銅	写真						奈良文化財研究所蔵、 ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
18	長屋王家木簡2 進物	写真						奈良文化財研究所蔵、 ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
19	平城宮木簡3(表) 丹波	写真						奈良文化財研究所蔵、 ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
19	平城宮木簡3(裏) 白米	写真						奈良文化財研究所蔵、 ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
19	平城宮木簡4 参河	写真						奈良文化財研究所蔵、 ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
19	平城宮木簡5 上総	写真						奈良文化財研究所蔵、 ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
19	平城宮木簡6 隠岐	写真						奈良文化財研究所蔵、 ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
19	木簡をくくりつけた荷物	写真						三重県埋蔵文化財センター提供
20	竪穴式石室と横穴式石室の模式図	図						著者作成
21	百舌鳥古墳群	写真						梅原章一提供
21	古墳時代中期のおもな大型前方後円墳	地図						著者作成
21	五色塚古墳(上)	写真						神戸市文化財課提供
21	五色塚古墳(復元された墳丘のようす)	写真						フォトライブラリー提供
21	三角縁神獣鏡	写真						京都大学総合博物館蔵
21	切妻造の家形埴輪	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
21	武人の埴輪	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
22	群集墳(奈良県新沢千塚古墳群)	写真						梅原章一提供
22	4世紀の朝鮮半島	地図						著者作成
22	広開土王碑	写真						著者提供
23	倭王武の上表文	史料	『宋書』倭国伝					
23	倭の五王と天皇	系図						著者作成
23	稲荷山古墳の鉄剣	写真						国(文化庁保管)、埼玉県立さきたま史跡の博物館提供

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
23	江田船山古墳の鉄刀	写真						東京国立博物館蔵、Image:TNM Image Archives
24	古代の豪族居館	写真						高崎市教育委員会(かみつけの里博物館)蔵
24	土師器	写真						奈良文化財研究所蔵
24	須恵器	写真						豊田市郷土資料館蔵
25	沖ノ島の祭祀場の巨岩群	写真						国立歴史民俗博物館蔵
25	岩戸山古墳	写真						八女市教育委員会(八女市岩戸山歴史文化交流館)蔵
25	6世紀前半の朝鮮半島	地図						著者作成
26	憲法十七条	史料	『日本書紀』					
27	遣隋使の派遣	史料	『隋書』倭国伝					
27	伽藍配置の変遷	図						著者作成
27	法隆寺西院	写真						梅原章一提供
27	法隆寺五重塔	写真						法隆寺蔵、田中真知郎提供
28	法隆寺金堂釈迦三尊像	写真						法隆寺蔵、奈良国立博物館提供
28	広隆寺弥勒菩薩半跏思惟像	写真						広隆寺蔵、便利堂提供
28	韓国国立中央博物館の金銅弥勒菩薩像	写真						韓国国立中央博物館蔵、CPC提供
28	法隆寺百済観音像	写真						法隆寺蔵、飛鳥園提供
28	中宮寺天寿国繡帳	写真						中宮寺蔵、田中真知郎提供
28	法隆寺玉虫厨子	写真						法隆寺蔵、奈良国立博物館提供
29	7~8世紀のアジア	地図						著者提供
30	改新の詔	史料	『日本書紀』					
30	鬼ノ城の西門	写真						岡山県観光連盟提供
30	大野城跡と水城跡	写真						大野城市提供
30	大野城跡と水城跡	地図						著者作成
31	藤原京の条坊復元図	地図						著者作成
32	律令官制	図						著者作成
32	筑前国嶋郡川辺里の戸籍	写真						正倉院宝物(宮内庁正倉院事務所)
33	貢納物のおもな使途	図						著者作成
33	条里制遺構	写真						梅原章一提供
34	8世紀中頃の東アジアと日唐交通路	地図						著者作成
35	平城京図	地図						著者作成
35	平城宮跡	写真						奈良文化財研究所提供
35	富本銭	写真						奈良文化財研究所蔵
35	和同開珎	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
35	天皇家と藤原氏の関係系図(1)	系図						著者作成
36	「長屋親王」の文字がみえる木簡	写真						奈良文化財研究所蔵、 ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
36	国分寺建立の詔	史料	『続日本書紀』					
36	大仏造立の詔	史料	『続日本書紀』					
37	8世紀の政情	表						著者作成
37	三世一身法	史料	『続日本書紀』					
37	鵜田永年私財法	史料	『続日本書紀』					
38	薬師寺東塔	写真						薬師寺蔵
38	興福寺仏頭	写真						興福寺蔵、飛鳥園提供
38	薬師寺金堂薬師三尊像	写真						薬師寺蔵、飛鳥園提供
39	法隆寺金堂壁画	写真						法隆寺蔵、奈良国立博物館提供
39	アジヤンター石窟寺院の壁画	写真						ユニフォプレス
39	高松塚古墳壁画	写真						国(文部科学省保管)、明日香村教育委員会提供
40	唐招提寺金堂	写真						唐招提寺、田中真知郎提供
40	正倉院宝庫	写真						正倉院正倉(宮内庁正倉院事務所)、田中真知郎提供
40	過去現在絵因果経	写真						東京藝術大学蔵、画像提供:東京藝術大学/DNPartcom
40	興福寺阿修羅像	写真						興福寺蔵、飛鳥園提供
40	東大寺法華堂執金剛神像	写真						東大寺蔵、田中真知郎提供
41	仏像の技法 塑像と乾漆像	図						著者作成
41	唐招提寺鑑真像	写真						唐招提寺蔵、奈良国立博物館提供
41	東大寺法華堂不空羼索観音立像	写真						東大寺蔵、飛鳥園提供
41	鳥毛立女屏風	写真						正倉院宝物(宮内庁正倉院事務所)
41	樹下美人図	写真						MOA美術館蔵

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
41	ガラスの碗(左)正倉院	写真						正倉院宝物(宮内庁正倉院事務所)
41	ガラスの碗(右)イラン	写真						画像提供:古代オリエント博物館/DNPartcom
41	螺鈿紫檀五絃琵琶	写真						正倉院宝物(宮内庁正倉院事務所)
42	桓武天皇	写真						延暦寺蔵
42	宮都の変遷	図						著者作成
42	平安京	地図						著者作成
43	東北地方の城柵	地図						著者作成
43	おもな令外官	表						著者作成
43	嵯峨天皇	写真						大覚寺蔵
44	室生寺五重塔	写真						室生寺蔵、桑原英文提供
44	室生寺金堂	写真						室生寺蔵、桑原英文提供
44	最澄	写真						一乗寺蔵、奈良国立博物館提供
44	空海	写真						東寺蔵、京都国立博物館提供
44	密教の修法	写真						東寺蔵
45	薬師寺僧形八幡神像	写真						薬師寺蔵、田中真知郎提供
45	教王護国寺講堂の不動明王像	写真						東寺蔵、田中真知郎提供
45	元興寺薬師如来像	写真						元興寺蔵、奈良国立博物館提供
46	教王護国寺両界曼荼羅(金剛界)	写真						東寺蔵、京都国立博物館提供
46	教王護国寺両界曼荼羅(胎蔵界)	写真						東寺蔵、京都国立博物館提供
46	風信帖	写真						東寺蔵、京都国立博物館提供
47	「多櫛嶋」と記された木簡	写真						奈良文化財研究所蔵、 ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
47	「大隅国」と記された木簡	写真						九州歴史資料館蔵
47	平城宮跡で出土した隼人の盾(復元)	写真						奈良文化財研究所蔵
47	律令下の九州南部と南島の一部	地図						著者作成
48	天皇家と藤原氏の関係系図(2)	系図						著者作成
48	藤原氏北家の発展と9~10世紀の諸事件	表						著者作成
49	菅原道真	写真						北野天満宮蔵
49	藤原道長	写真	『紫式部日記絵詞』					藤田美術館蔵
49	藤原氏の栄華	史料	『小右記』					
50	阿波国板野郡田上郷の902(延喜2)年の戸籍	写真						国(文化庁保管)、徳島市教育委員会(徳島市徳島城博物館)提供
51	尾張国郡司百姓等解	史料	「尾張国郡司百姓等解」					
51	10~11世紀ころの東アジア	地図						著者作成
52	かなの発達	図						著者作成
52	離洛帖	写真						荏原皇山記念館蔵
53	平等院鳳凰堂	写真						平等院
53	平等院鳳凰堂阿弥陀如来像	写真						平等院
53	空也	写真						六波羅蜜寺蔵、浅沼光晴提供
53	『往生要集』の序文	史料	『往生要集』					
53	寄木造の技法	図						著者作成
54	阿弥陀聖衆来迎図(高野山)	写真						高野山有志八幡講蔵、高野山霊宝館提供
54	束帯・女房装束	図						著者作成
54	寝殿造	写真						国立歴史民俗博物館蔵
54	平等院鳳凰堂扉絵	写真	「九品来迎図(中品上生図)」					平等院
54	片輪車螺鈿蒔絵手箱	写真						東京国立博物館蔵、Image:TNM Image Archives
55	武士団の構造	図						著者作成
56	桓武平氏略系図	系図						著者作成
56	清和源氏略系図(1)	系図						著者作成
56	将門の首を運ぶ藤原秀郷の隊列	写真	『倭藤太絵巻』					金戒光明寺蔵、京都国立博物館提供
57	年代表	図						著者作成
57	厳島神社	写真						厳島神社蔵、廿日市提供
57	『一遍上人絵伝』にえがかれた厳島神社	写真						清浄光寺(遊行寺)蔵
58	記録荘園券契所の設置	史料	『愚管抄』					
59	院政関係略系図	系図						著者作成
59	法勝寺	写真						京都市歴史資料館蔵

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
60	荘園の絵図	図						神護寺蔵原図をもとに、著者作成
60	荘園公領制のしくみ	図						著者作成
61	僧兵	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
61	後三年合戦	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
62	伝平清盛像	写真						六波羅蜜寺蔵、浅沼光晴提供
62	後白河法皇	写真						長講堂蔵
62	保元・平治の乱	写真						ボストン美術館蔵、ユニフォトプレス提供
62	保元・平治の乱関係図	図						著者作成
63	日宋貿易	地図						著者作成
63	平氏の繁栄	史料	『平家物語』					
64	『源氏物語絵巻』(「宿木」)	写真						徳川美術館蔵、©徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom
64	『伴大納言絵巻』	写真						出光美術館蔵
64	『鳥獣人物戯画』	写真						高山寺蔵、京都国立博物館提供
65	『扇面古写経』	写真						四天王寺蔵
65	白水の阿弥陀堂	写真						白水阿弥陀堂蔵
65	富貴寺大堂	写真						豊後高田市商工観光課提供
65	『平家納経』	写真						厳島神社蔵、田中真知郎提供
66	中尊寺金色堂内陣	写真						中尊寺蔵
66	奥州藤原氏の勢力圏	地図						著者作成
67	文化財の体系図	図	「文化財の体系図」					文化庁ホームページをもとに作成
67	携帯電話	写真						NTTドコモ蔵
67	ワープロ専用機	写真						株式会社東芝提供
68	『年中行事絵巻』朝観行幸の図	写真						田中家蔵
69	「一遍上人絵伝」四条釈迦堂の図	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
70・71	「洛中洛外図屏風」右隻	写真						米沢市(上杉博物館)蔵
72	清和源氏略系図(2)	系図						著者作成
72	源氏・平氏の勢力関係図	地図						著者作成
73	鎌倉要図	地図						著者作成
73	空からみた鎌倉	写真						鎌倉市提供
73	伝源頼朝像	写真						神護寺蔵、京都国立博物館提供
73	鎌倉幕府初期の機構	図						著者作成
74	源頼朝袖判下文	写真						東京大学史料編纂所蔵
74	公武二元支配の機構	図						著者作成
75	執権政治の確立	表						著者作成
75	後鳥羽天皇	写真						水無瀬神宮蔵
76	鎌倉幕府中期以降の機構	図						著者作成
76	御成敗式目	史料	『御成敗式目』					
76	式目制定の趣旨(北条泰時書状)	史料	『御成敗式目』唯浄裏書本					
77	北条氏略系図	系図						著者作成
77	笠懸	写真	『男衾三郎絵巻』					東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
77	伯耆国東郷荘(鳥取県)の下地中分図	写真						東京大学史料編纂所蔵
78	モンゴル帝国の最大領域とモンゴル襲来関係図	地図						著者作成
79	元軍との陸戦の図	写真	『蒙古襲来絵詞』					皇居三の丸尚蔵館蔵
79	防塁跡	写真						福岡市提供
79	日本図	写真						称名寺蔵、神奈川県立金沢文庫保管
80	鎌倉時代の市	写真	『一遍上人絵伝』					清浄光寺(遊行寺)蔵
80	牛馬耕	写真	『松崎天神縁起絵巻』					山口県防府天満宮蔵
80	借上	写真	『山王靈験記絵巻』					和泉市久保惣記念美術館蔵
81	紀伊国阿氏河荘民の訴状	史料	『高野山文書』					
81	永仁の徳政令	史料	『東寺百合文書』					
81	悪党	写真	『融通念仏縁起絵巻』					清涼寺蔵
82	新仏教の宗派	表						著者作成

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
82	法然	写真	『法然上人絵伝』					知恩院蔵、京都国立博物館提供
82	親鸞	写真						奈良国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
82	悪人正機――『歎異抄』	史料	『歎異抄』					
83	栄西	写真						寿福寺蔵
83	道元	写真						永平寺蔵
83	日蓮	写真						池上本門寺蔵
83	踊念仏	写真	『一遍上人絵伝』					東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
83	叡尊	写真						西大寺蔵、奈良国立博物館提供
84	東大寺南大門	写真						東大寺蔵、田中真知郎提供
84	興福寺無著像	写真						興福寺蔵、飛鳥園提供
84	東大寺南大門金剛力士像	写真						東大寺蔵、田中真知郎提供
84	円覚寺舍利殿	写真						円覚寺蔵
85	『北野天神縁起絵巻』	写真						北野天満宮蔵
85	『春日権現験記絵』	写真						皇居三の丸尚蔵館蔵
85	赤糸威鎧	写真						武蔵御嶽神社蔵
85	瀬戸焼	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
86	天皇家略系図	系図						著者作成
86	後醍醐天皇	写真						清浄光寺(遊行寺)蔵
87	建武政府の職制	図						著者作成
87	二条河原落書	史料	『建武年間記』					
88	南北朝の動乱	表						著者作成
88	一三五二年の半済令	史料	『建武以来追加』					
89	傘連判	写真						東京大学史料編纂所蔵
89	足利義満	写真						鹿苑寺蔵
89	室町幕府の機構	図						著者作成
90	守護大名の分布(ほぼ15世紀初頭を中心)と戦乱	地図						著者作成
90	足利氏略系図	系図						著者作成
91	14～15世紀ごろの東アジア	地図						著者作成
91	遣明船	写真	『真如堂縁起』					真正極楽寺蔵
92	倭寇	写真	『倭寇図巻』					東京史料編纂所蔵
92	志苔館	写真						函館市教育委員会提供
93	惣掟	史料	『今堀日吉神社文書』					
94	正長の徳政一揆	史料	『大乘院日記目録』					
94	柳生の徳政碑文 地蔵	写真						桑原英文提供
94	柳生の徳政碑文 碑文	写真						桑原英文提供
94	応仁の乱対立関係	図						著者作成
95	足輕	写真	『真如堂縁起』					真正極楽寺蔵
95	応仁の乱による被災地域	地図						著者作成
95	山城の国一揆	史料	『大乘院寺社雑事記』					
95	加賀の一向一揆	史料	『実悟記拾遺』					
96	蓮如	写真						安居院西法寺蔵
96	土一揆・国人一揆と一向宗	地図						著者作成
96	田植えのようす	写真	『月次風俗図屏風』					東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
97	連雀商人	写真	『石山寺縁起絵巻』					石山寺蔵
97	明銭	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
97	私鑄銭	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
97	焼け残った倉	写真	『春日権現験記絵』					皇居三の丸尚蔵館蔵
97	馬借	写真	『石山寺縁起絵巻』					石山寺蔵
98	連歌	史料	『水無瀬三吟百韻』					
99	鹿苑寺金閣	写真						鹿苑寺蔵
99	慈照寺銀閣	写真						慈照寺蔵
99	瓢鮎図	写真						妙心寺退蔵院蔵、京都国立博物館提供
99	観世能図	写真	『洛中洛外図屏風』					国立歴史民俗博物館蔵

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
99	能面	写真						三井記念美術館蔵
100	天龍寺庭園	写真						天龍寺蔵
100	龍安寺石庭	写真						龍安寺蔵、田中真知郎提供
100	東求堂同仁齋	写真						慈照寺蔵
100	秋冬山水図	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
101	大徳寺大仙院花鳥図	写真						大徳寺大仙院蔵、京都国立博物館提供
101	立花	写真	『慕婦絵詞』					本願寺(西本願寺)蔵
101	御伽草子	写真	『物くさ太郎』					大阪公立大学中百舌鳥図書館蔵
102	常栄寺の雪舟庭	写真						常栄寺蔵、山口県提供
102	足利学校	写真						足利市提供
102	節用集	写真						国立国会図書館蔵
103	戦国大名の勢力範囲とおもな分国法・家訓	地図						著者作成
104	一乗谷	写真						福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館提供
104	信玄堤	図						著者作成
104	家法・分国法	史料	『朝倉孝景条々』『甲州法度之次第』『塵芥集』					
105	自由都市界について(ガスパル=ヴィレラ書簡)	史料	『耶蘇会土日本通信』					
105	寺内町	地図	『日本都市史研究』	107	西川幸治	日本放送協会	1972	左記出典をもとに著者作成
106	首里城	写真						沖縄美ら島財団首里城公園管理センター提供
106	琉球の三山分立	地図						著者作成
107	年代表	表						著者作成
107	ティセラ「日本図」(全体)と部分拡大	写真						島根県立古代出雲歴史博物館蔵
107	御取納丁銀	写真						島根県立古代出雲歴史博物館蔵
108	1600年前後の世界と日本人の往来	地図						著者作成
109	種子島銃	写真						種子島時邦蔵、種子島開発総合センター提供
109	ザビエル	写真						神戸市立博物館蔵
109	キリスト教の伝播	地図						著者作成
110	織田信長	写真						長興寺(豊田市)蔵、豊田市郷土資料館提供
110	織田信長の事績	表						著者作成
110	鉄砲隊の活躍	写真						徳川美術館蔵、©徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom
111	信長・秀吉の統一過程	地図						著者作成
111	豊臣秀吉	写真						高台寺(掌美術館)蔵
111	豊臣秀吉の事績	表						著者作成
112	印判 ①小田原北条氏 ②大友宗麟 ③織田信長 ④豊臣秀吉 ⑤徳川家康	図	『国史大辞典』1	印章(別刷図版)	国史大辞典編集委員会	吉川弘文館	1979	
112	太閤検地尺	写真						尚古集成館蔵
113	刀狩令	史料	『小早川家文書』					
113	バテレン追放令	史料	『松浦文書』					
114	名護屋城	写真	『肥前名護屋城図屏風』(佐賀県重要文化財)					佐賀県立名護屋城博物館蔵
114	文禄・慶長の役	地図						著者作成
115	姫路城	写真						姫路市提供
115	都久夫須麻神社本殿	写真						都久夫須麻神社蔵、滋賀県文化スポーツ部文化財保護課提供
115	二条城二の丸御殿大広間	写真						京都市元離宮二条城事務所提供
115	『唐獅子図屏図』	写真						皇居三の丸尚蔵館蔵
115	妙喜庵待庵	写真						妙喜庵蔵、便利堂提供
115	阿国歌舞伎	写真	『阿国歌舞伎図』					京都国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
116	南蛮屏風	写真						南蛮文化館蔵
116	天草版『平家物語』	写真						大英図書館蔵、ユニフォトプレス提供
116	伊東マンショの肖像	写真						トリヴルツィオ財団蔵、ユニフォトプレス提供
117	朝鮮通信使節関係略年表	表						著者作成
117	史料1	史料	『寛永日記』『朝鮮往来』					
117	朝鮮通信使が通った道すじ	地図	『宗家記録と朝鮮通信使展』	118・119	李元植	朝日新聞社	1992	左記出典をもとに、著者作成

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
118	「朝鮮通信使上判事船図」	写真						大阪歴史博物館「辛基秀コレクション」
118	「朝鮮通信使来朝図」	写真						神戸市立博物館蔵
119	「土浦御祭礼之図」	写真						土浦市立博物館蔵
119	史料2	史料	『島雄虎雄文書』寛永十六年八月六日					
120	17世紀前半の東アジア	地図						著者作成
120	関係年表	表						著者作成
121	文化財レスキュー活動を伝える新聞記事	写真						『毎日新聞』2017年6月11日より
122	徳川家康	写真						日光山輪王寺蔵
122	『江戸図屏風』	写真						国立歴史民俗博物館蔵
123	幕藩体制のしくみ	図						著者作成
123	武家諸法度(元和令)	史料	『御触書寛保集成』					
123	徳川氏略系図	系図						著者作成
123	江戸幕府の職制	図						著者作成
124	武家諸法度(寛永令)	史料	『御触書寛保集成』					
124	大名の配置	地図						著者作成
125	禁中並公家諸法度	史料	『大日本史料 第12編之22』	161～164	東京帝国大学	東京帝国大学	1920	国立国会図書館デジタルコレクション
125	後水尾天皇	写真						御寺泉涌寺蔵
125	身分別人口構成	グラフ	『近世日本の人口構造』	287	関山直太郎	吉川弘文館	1958	左記出典を元に著者作成
126	宗門人別改帳	写真						国文学研究資料館蔵(信濃国伊那郡嶋田村森本家文書)
126	衣食にみる身分の差	写真	『老農夜話』					東京大学史料編纂所蔵
126	村の構造	図						著者作成
127	一六四二(寛永十九)年五月の村々への法令	史料	『御当家令条』					
127	一六四三(寛永二十)年三月の田畑永代売買を禁ずる法令	史料	『御触書寛保集成』					
127	城下町姫路	地図	『都市史図集』	9	都市史図集編集委員会編	彰国社	1999	
128	町と町屋敷の模式図	図						著者作成
129	朱印船	写真						国立歴史民俗博物館蔵(複製)、原品は長崎県清水寺蔵
129	朱印船渡航地と日本町	地図						著者作成
129	江戸初期の対外関係	表						著者作成
130	寛永十二年禁令	史料	『教令類纂』					
130	寛永十六年禁令	史料	『御当家令条』					
130	踏絵	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
130	絵踏のようす	写真	”Nippon”		Philipp Franz von Siebold			オランダ国立ライデン民族学博物館蔵、ユニフォトプレス提供
130	長崎の出島	写真	「長崎和蘭陀屋舗図」					立正大学図書館田中啓爾文庫蔵
131	琉球使節	写真	『琉球中山王両使者登城行列図』					国立公文書蔵
132	アイヌの参賀の礼	写真	『蝦夷国風図絵』					函館市中央図書館蔵
132	林羅山	写真						東京大学史料編纂所蔵
133	日光東照宮陽明門	写真						日光東照宮
133	桂離宮	写真						宮内庁京都事務所提供
133	『風神雷神図屏風』	写真						建仁寺蔵、京都国立博物館提供
133	舟橋蒔絵硯箱	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
133	色絵花鳥文皿	写真						佐賀県立九州陶磁文化館蔵
134	徳川綱吉	写真						徳川美術館蔵、©徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom
134	武家諸法度(天和令)	史料	『御触書寛保集成』					
134	「忠臣蔵 夜討」	写真						太田記念美術館蔵
135	明暦の大火	写真	『江戸火事図巻』					東京都江戸東京博物館蔵
135	新井白石	写真						東京大学史料編纂所蔵

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
135	金貨成分比の推移	グラフ	『日本通貨変遷図鑑』	11～14	大蔵財務協会編	大蔵財務協会	1995	左記出典を元に著者作成
136	おもな農具 竜骨車	図	『成形図説』					左記出典を元に製図
136	おもな農具 踏車	図	『農具便利論』					左記出典を元に製図
136	おもな農具 備中鋏・平鋏	図	『民家検図』					左記出典を元に製図
136	おもな農具 扱箸	図	『農業全書』					左記出典を元に製図
136	おもな農具 千歯扱	図	『労農夜話』					左記出典を元に製図
136	おもな農具 からさお	図	『和漢三才図会』					左記出典を元に製図
136	おもな農具 唐箕	図	『労農夜話』					左記出典を元に製図
136	おもな農具 千石篩	図	『成形図説』					左記出典を元に製図
136	新田開発と人口の変化	グラフ	『明治以前日本土木史』	付表	土木学会編	土木学会	1936	左記出典などより著者作成
137	おもな商品作物 養蚕	写真						photoAC提供
137	おもな商品作物 桑	写真						フォトライブラリー提供
137	おもな商品作物 漆	写真						フォトライブラリー提供
137	おもな商品作物 茶	写真						フォトライブラリー提供
137	おもな商品作物 楮	写真						アーテファクトリー提供
137	おもな商品作物 紅花	写真						photoAC提供
137	おもな商品作物 藍	写真						フォトライブラリー提供
137	おもな商品作物 麻	写真						トスコ株式会社提供
137	捕鯨	写真						大阪歴史博物館蔵
138	天秤たたら図	写真	「先大津阿川村山砂鉄洗取之図」鉄ヲフク図					東京大学工学・情報理工学図書館工3号館図書室蔵
138	高機図	写真						西陣織物館蔵
139	江戸時代の都市と交通	地図						著者作成
139	菱垣廻船	写真	「尻海古景図」					若宮八幡宮蔵、瀬戸内市提供
140	三井越後屋呉服店	写真						株式会社三越伊勢丹蔵
141	寛永通宝	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
141	豆板銀	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
141	一分銀	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
141	元禄小判	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
141	丁銀	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
141	三貨制度	図						著者作成
141	大坂の蔵屋敷	写真	「摂津名所図会」					国立国会図書館蔵
142	湯島聖堂	写真						国立公文書館蔵
142	儒学者系統図	系図						著者作成
142	林鳳岡	写真						国立国会図書館蔵
142	熊沢蕃山	写真						(公財)藤樹書院蔵
143	井原西鶴	写真						個人蔵
143	松尾芭蕉	写真						天理大学附属天理図書館蔵
143	近松門左衛門	写真	「奥の細道行脚之図」					早稲田大学演劇博物館蔵
143	『塵劫記』	写真						東北大学附属図書館蔵
143	天球儀	写真						国立科学博物館蔵
144	『紅白梅図屏風』	写真						MOA美術館蔵
144	八橋蒔絵螺鈿硯箱	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
144	『曾根崎心中』の舞台のようす	写真						国立国会図書館蔵
145	見返り美人図	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
145	友禅染	写真						東京国立博物館蔵、Image:TNM Image Archives
145	色絵吉野山図茶壺	写真						静嘉堂文庫美術館蔵、静嘉堂文庫美術館イメージアーカイブ/DNPartcom
146	交易でにぎわう松前港	写真	『松前屏風』					松前町郷土資料館蔵
146	和人の進出	地図						著者作成
147	徳川吉宗	写真						徳川記念財団蔵
147	大名の窮乏	史料	『経済録拾遺』					
148	百姓一揆の推移	グラフ	『百姓一揆総合年表』	28～32、34	青木虹二	三一書房	1971	左記出典を元に著者作成
149	田沼意次	写真						勝林寺蔵
149	南鐔二朱銀	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
149	浅間山大噴火	写真						個人蔵
150	洋学者系統図	系図						著者作成
150	『解体新書』	写真						学習院大学史料館蔵
150	本居宣長	写真						本居宣長記念館
150	国学者系統図	系図						著者作成
151	寺子屋	写真	『一掃百態』					田原市博物館蔵
151	貸本屋	写真	『本朝桜陰比事』					国立国会図書館デジタルコレクション
151	川柳(『誹風柳多留』)	史料	『誹風柳多留』					
151	狂歌	史料	『狂歌才蔵集』巻12など					
152	雨夜の宮詣	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
152	ポップンを吹く女	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
152	三代目大谷鬼次の奴江戸兵衛	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
152	西洋婦人図	写真						神戸市立博物館蔵
152	「十便十宜図 釣便図」	写真						川端康成記念会蔵、日本近代文学館提供
152	『雪松図屏風』	写真						三井記念美術館蔵
153	松平定信	写真						鎮国守国神社蔵
153	人足寄場	図	『大日本近世史料 市中取締類集27』	138	東京大学史料編纂所	東京大学出版会	2006	左記出典を元に著者作成
153	海防論	史料	『海国兵談』					
154	寛政の改革を風刺した狂歌	史料	『江戸時代落書類聚』など					
154	北方探査要図	地図						著者作成
154	列強の接近関係図	地図						著者作成
155	大黒屋光太夫	写真	「光太夫・磯吉画幅」					鈴鹿市教育委員会蔵
155	異国船打払令(無二念打払令)	史料	『御触書天保集成』					
156	大塩の乱	写真	『出潮引汐奸賊聞集記』					大阪歴史博物館蔵
156	大塩平八郎	写真						大阪城天守閣蔵
156	水野忠邦	写真						東京都立大学図書館蔵
157	株仲間の解散	史料	『江戸町触集成』13	447	近世史料研究会	塙書房	2000	
157	西洋砲術の採用	写真	「高島四郎太夫砲術稽古業見分之図」					板橋区立郷土資料館蔵
158	織屋の生産	写真	『尾張名所図会』					国立公文書館蔵
158	佐賀藩の反射炉	写真						公益財団法人鍋島報効会蔵
158	万年時計	写真						株式会社東芝所有、国立科学博物館展示
159	本多利明の貿易論	史料	『経世秘策』					
159	「大日本沿海輿地全図」	写真						国立国会図書館蔵
160	『浅間山図屏風』	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
160	「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」	写真						メトロポリタン美術館蔵
160	鷹見泉石像	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
160	歌川広重筆「名所江戸百景 亀戸梅屋敷」	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
160	ゴッホ画「ジャポネズリー、花咲く梅の木(広重を模して)」	写真						ファン=ゴッホ美術館蔵、ユニフォトプレス提供
161	芝居小屋のにぎわい	写真						早稲田大学演劇博物館蔵
162	泉田二君功德碑	写真						妙遠寺蔵
163	年代表	表						著者作成
163	東置繭所正面	写真						富岡市提供
163	富岡製糸場	写真						国立国会図書館デジタルコレクション
164	ペリー	写真						ユニフォトプレス提供
164	ペリー艦隊の来航図	地図						著者作成

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
165	開国前後の落首	史料	『色川三中来翰集』(静嘉堂文庫蔵)、『藤岡屋日記』第5巻	466	鈴木棠三・小池章太郎編	三一書房	1989	
165	ペリー来航	写真	『嘉永六癸丑年六月九日於相模国久里浜浦四家御固之上浦賀奉行亜墨利加国王ヨリ書簡請取二付異人 上陸ノ図並四家御固十分一ノ写附ク近辺御台場後望見ノ図 其一』					横浜市中央図書館蔵
165	蒸気機関車模型	写真	嘉永七年二月献上〔蒸気車〕					横浜市中央図書館蔵
166	日米和親条約の英語原文	写真						アメリカ国立公文書館蔵
166	日米修好通商条約	史料	『大日本古文書 幕末外国関係文書20』	#194(476～480)	東京帝国大学文学部史料編纂掛	東京帝国大学	1930	
167	品川台場	写真						東京都提供
167	開港地横浜のようす	写真	「横浜本町并二港崎町細見全図」					早稲田大学図書館蔵
168	輸出入額の変遷	グラフ	『幕末貿易史の研究』	52～54	石井孝	日本評論社	1944	左記出典を元に著者作成
168	主要輸出入品の割合	グラフ	『幕末貿易史の研究』	181～182	石井孝	日本評論社	1944	左記出典を元に著者作成
168	為替レートの違い	図						著者作成
168	天保小判	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
168	洋銀(メキシコドル)	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
168	天保一分銀	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
168	万延小判	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
169	井伊直弼	写真	井伊直弼像					豪徳寺蔵
169	桜田門外の変	写真	桜田門外の変図					茨城県立図書館蔵(茨城県立歴史館保管)
170	薩英戦争	写真						尚古集成館蔵
170	四国艦隊により占領された下関の砲台	写真						横浜開港資料館蔵
171	王政復古の大神令(慶応三年十二月九日)	史料	『法令全書』	6		内閣官報局	慶応3年12月	国立国会図書館デジタルコレクション
171	徳川慶喜	写真						茨城県立歴史館蔵
172	小御所会議	写真	王政復古(島田墨仙)					聖徳記念絵画館蔵
172	五稜郭	写真						水産航空株式会社提供
172	幕末の動き	表						著者作成
173	五箇条の誓文	史料	『法令全書』	64		内閣官報局	明治元年3月	国立国会図書館デジタルコレクション
173	五箇条の誓文の草案	写真	木戸家文書 天9					宮内庁書陵部蔵
173	政体書による中央官制	図						著者作成
174	民撰議院設立の建白書	史料	『日新真事誌』				第206号 明治7年1月18日	
174	総選挙の有権者が総人口に占める比率	グラフ	『日本長期統計総覧』第5巻	349～350	総務庁統計局監修	日本統計協会	1988	左記出典を元に著者作成
175	第1次護憲運動	写真						
175	デモ隊に囲まれる国会議事堂	写真						
176	生糸の生産量と輸出量	グラフ	日本の長期統計系列『蚕糸業要覧』		農林省蚕糸局編	農林省蚕糸局		データはインターネットより。左記出典を元に著者作成
177	開業時の富岡製糸場	写真	上州富岡製糸場之図					群馬県立日本絹の里蔵
177	富岡製糸場の操糸場の内部	写真						富岡市提供
178	廃藩置県後の中央官制	図						著者作成
179	山県有朋	写真						朝日新聞社提供
179	徴兵告諭	史料	『法令全書』	432～433		内閣官報局	明治5年11月	国立国会図書館デジタルコレクション
180	地券	写真						当社蔵
180	小作人生産米の利益配分の変化	グラフ	丹羽邦男「地租改正と秩禄処分」『岩波講座 日本歴史15 近代2』	145		岩波書店	1962	左記出典を元に著者作成
180	農民一揆の状況	グラフ	『明治農民騒擾の年次的研究』	36、64	青木虹二	新生社	1967	左記出典を元に著者作成
181	おもなお雇い外国人の就職先と月給	表						著者作成
181	蒸気機関車	写真	「東京名勝之内高輪蒸気車鉄道全図」					鉄道博物館蔵

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
181	富岡製糸場の内部	写真						東京国立博物館蔵、Image:TNM Image Archives
182	福沢諭吉	写真						慶應義塾福澤研究センター蔵
182	『学問のすゝめ』	写真						国立国会図書館デジタルコレクション
182	学事奨励に関する太政官布告(被仰出書)	史料	『法令全書』	146～147		内閣官報局	明治5年8月	国立国会図書館デジタルコレクション
182	学校教育	写真						国立教育政策研究所教育図書館蔵
183	廃仏毀釈	写真	『開化乃入口』					国立国会図書館蔵
183	東京の文明開化	写真						東京都江戸東京博物館蔵
184	岩倉使節団	写真						山口県文書館蔵
185	明治初期の日本の領土	地図						著者作成
185	西郷隆盛	写真						西郷南洲顕彰館蔵
186	板垣退助	写真						国立国会図書館蔵
186	演説会のような	写真	『絵入自由新聞』					国立国会図書館蔵
186	大隈重信	写真						早稲田大学歴史館蔵
187	自由民権運動と立憲体制の成立過程	表						著者作成
188	自由党员などの激化事件	地図						著者作成
188	保安条例	史料	『官報』			内閣官報局	号外 明治20年 12月25日	国立国会図書館デジタルコレクション
188	言論の弾圧	写真	『トバエ』22号		ジョルジュ・ビゴー		明治21年	横浜開港資料館蔵
188	岸田俊子	写真	『板垣君近世紀聞(民権泰斗)』二編 岸田とし子肖像					東京大学大学院法学政治学研究科附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫蔵
189	伊藤博文	写真						毎日新聞社提供
189	井上毅	写真						国立国会図書館蔵
189	大日本帝国憲法	史料	大日本帝国憲法御署名原本				明治22年2月11日	国立公文書館デジタルアーカイブ
189	憲法発布宮中式典	写真	「憲法発布式」		和田英作			聖徳記念絵画館蔵
190	大日本帝国憲法下の国家機構	図						著者作成
190	おもな法典の制定	表						著者作成
190	第1回・第2回の総選挙結果	グラフ	伊藤隆・福地惇「藩閥政府と民党」『岩波講座 日本歴史 15 近代2』	290		岩波書店	1976	左記出典を元に著者作成
192	ノルマントン号事件の風刺画	写真	『トバエ』9号		ジョルジュ・ビゴー		明治20年	川崎市市民ミュージアム蔵
192	鹿鳴館の舞踏会	写真						神戸市立博物館蔵
193	三宅雪嶺	写真						日本近代文学館蔵
193	『日本人』	写真						日本近代文学館蔵
193	徳富蘇峰	写真	徳富蘇峰会員写真					日本学士院蔵
193	『国民之友』	写真						日本近代文学館蔵
193	陸奥宗光	写真						外務省外交史料館蔵
193	小村寿太郎	写真						国立国会図書館蔵
194	条約改正の歩み	表						著者作成
194	「魚釣り遊び」(漁夫の利)	写真	『トバエ』1号		ジョルジュ・ビゴー		明治20年	横浜開港資料館蔵
195	日清戦争関係図	地図						著者作成
195	日清講和会議	写真	下関講和談判(永地秀太)					聖徳記念絵画館蔵
195	日清戦争の賠償金の使途	グラフ	『明治財政史』	290～291	明治財政史編纂会編	丸善	1904	左記出典を元に著者作成
196	立憲政友会の成立	写真						朝日新聞社提供
197	北清事変で出兵した連合軍の兵士たち	写真						ユニフォトプレス提供
197	列強による中国進出	地図						著者作成
198	「火中の栗」	写真						国立国会図書館蔵
198	ポーツマス条約の調印	写真	「ポーツマス講和談判」		白滝幾之助			聖徳記念絵画館蔵
198	日露戦争関係図	地図						著者作成
199	日比谷焼打ち事件	写真	『風俗画報』				明治38年10月 10日	国立国会図書館蔵
199	統監府	写真						国立国会図書館蔵
199	日朝関係の推移	表						著者作成

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
200	桂太郎	写真						国立国会図書館蔵
200	西園寺公望	写真						国立国会図書館蔵
200	元老一覧	表						著者作成
201	尾崎行雄	写真						尾崎行雄記念財団蔵
201	第1次護憲運動	写真						朝日新聞社提供
201	尾崎行雄の議会演説	史料	『官報』			内閣印刷局	号外 大正2年2月6日	国立国会図書館デジタルコレクション
202	第一次世界大戦までの国際関係	地図						著者作成
203	第一次世界大戦期の東アジア関係図	地図						著者作成
203	二十一ヵ条の要求	史料	『日本外交年表並主要文書』上巻	381～384	外務省編	原書房	1965	
204	シベリア出兵の風刺漫画	写真	『シベリア出兵』(「楽天全集」5巻)		北沢楽天			さいたま市立漫画会館蔵
204	第一次世界大戦開始後の物価指数	グラフ	『日本経済統計総観』	940、1120～1129	朝日新聞社編	朝日新聞社	1930	左記出典を元に著者作成
204	「富山の女一揆」	写真						朝日新聞社提供
204	名古屋の米騒動	写真	『米騒動絵巻』					徳川美術館蔵、©徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom
205	吉野作造の民本主義	史料	『中央公論』			中央公論社	1916年1月号	
205	吉野作造	写真						国立国会図書館蔵
205	原敬	写真	生前最後の写真(大正10年10月22日岐阜玉井旅館)					原敬記念館蔵
206	パリ講和会議の全権たち	写真						ユニフォトプレス提供
206	日本領土の変遷	地図						著者作成
207	五・四運動	写真						ユニフォトプレス提供
207	三・一独立運動	写真						ユニフォトプレス提供
207	戦艦「土佐」	写真						三菱重工業株式会社蔵
208	おもな国際会議・条約	表						著者作成
208	幣原喜重郎	写真						国立国会図書館蔵
208	関東大震災を報じる新聞記事	写真						朝日新聞社提供
208	関東大震災で折れた浅草十二階	写真						毎日新聞社提供
209	平民社	写真						日本近代文学館蔵
209	大逆事件の判決を報じる新聞記事	写真	『東京朝日新聞』				1911年1月19日	朝日新聞社提供
210	平塚らいてう	写真						国立国会図書館蔵
210	『青鞥』創刊号	写真						日本近代文学館蔵
210	全国水平社大会	写真						朝日新聞社提供
210	護憲三派の党首	写真						毎日新聞社提供
211	おもな選挙法の改正	表	『日本長期統計総覧』第1巻 『日本長期統計総覧』第5巻	48～49 349	総務庁統計局監修	日本統計協会	1987 1988	左記出典などを元に著者作成
211	治安維持法	史料	『官報』			内閣印刷局	第3797号 大正14年4月22日	国立国会図書館デジタルコレクション
212	渋沢栄一	写真						渋沢史料館蔵
212	第一国立銀行	写真	THE MITSUI BANK BUILDING AT KABUTOCHO, TOKYO 東京兜町・三井銀行建物					神奈川県立歴史博物館蔵
213	松方正義	写真						朝日新聞社提供
213	日本銀行	写真						日本銀行蔵
213	最初の日本銀行兌換銀券	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
213	おもな払下げ工場・鉱山	表	『近現代日本経済史要覧 補訂版』	61	三和良一・原朗編	東京大学出版会	2010	左記出典などを元に著者作成
214	大阪紡績会社	写真	大阪紡績会社かせ掛室					東洋紡株式会社蔵
214	綿糸の生産と輸出入の変遷	グラフ	『日本紡績史』	489～491、503	飯島幡司	創元社	1949	左記出典を元に著者作成
215	八幡製鉄所	写真	官営八幡製鉄所、八幡小学校より製鉄所をのぞむ					日本製鉄株式会社九州製鉄所蔵
215	鉄道の営業キロ数	グラフ	『日本経済統計総観』	805	朝日新聞社編	朝日新聞社	1930	左記出典を元に著者作成

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
215	品目別の輸出入の割合	グラフ	『日本貿易精覧』		東洋経済新報社編	東洋経済新報社	1935	左記出典を元に著者作成
216	コンツェルンの構造	図						著者作成
216	新潟県の大地主の小作米納入	写真						北方文化博物館蔵
216	小作地率の変化	グラフ	『近現代日本経済史要覧 補訂版』	19	三和良一・原朗編	東京大学出版会	2010	左記出典を元に著者作成
216	工女の働くようす	写真	製糸工場内写真					須崎市立博物館蔵
217	足尾銅山精錬場	写真						国立国会図書館蔵
217	田中正造	写真						国立国会図書館蔵
217	労働争議・小作争議の推移	グラフ	『日本経済統計集』	296～299	日本統計研究所	日本評論社	1958	左記出典を元に著者作成
218	内村鑑三	写真						国立国会図書館蔵
218	義務教育における就学率の向上	グラフ	『学制百年史』資料編		文部省	帝国地方行政学会	1981	文部科学省ウェブページより。左記出典を元に著者作成
219	女子英学塾	写真	〈一番町〉最初の校舎					津田塾大学津田梅子資料室蔵
219	『小説神髓』	写真						日本近代文学館蔵
219	『浮雲』	写真						日本近代文学館蔵
220	『みだれ髪』	写真						日本近代文学館蔵
220	『たけくらべ』	写真						日本近代文学館蔵
220	『若菜集』	写真						日本近代文学館蔵
220	『一握の砂』	写真						日本近代文学館蔵
220	森鷗外	写真						国立国会図書館蔵
220	夏目漱石	写真						日本近代文学館蔵
221	悲母観音	写真						東京藝術大学蔵、画像提供：東京藝術大学/DNPartcom
221	竜虎図	写真						静嘉堂文庫美術館蔵、静嘉堂文庫美術館イメージアーカイブ/DNPartcom
221	黒き猫	写真						永青文庫蔵
221	湖畔	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
221	海の幸	写真						石橋財団アーティゾン美術館蔵
221	鮭	写真						東京藝術大学蔵、画像提供：東京藝術大学/DNPartcom
222	旧岩崎家住宅	写真						公益財団法人 東京都公園協会 岩崎邸提供
222	老猿	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
222	女	写真						東京国立近代美術館蔵、Photo:MOMAT/DNPartcom
222	9代目市川団十郎の「暫」	写真						松竹大谷図書館蔵
223	滝廉太郎	写真	「滝廉太郎帰国時送別会」画像					大分市歴史資料館蔵
223	路面電車の風景	写真	『風俗画報』					日本近代文学館蔵
223	成金	写真	「成金栄華時代」		和田邦坊			灸まん美術館蔵
224	第一次世界大戦前後の輸出入	グラフ	『日本経済統計総観』	238	朝日新聞社編	朝日新聞社	1930	左記出典を元に著者作成
224	東京市電の女性車掌	写真						毎日新聞社提供
225	新聞の発行部数の拡大	グラフ	『朝日新聞社史 資料編』	320～321	朝日新聞社百年史編集委員会編	朝日新聞社	1995	左記出典を元に著者作成
			『毎日新聞販売史 戦前・大阪編』	604	川上富蔵編	毎日新聞大阪開発	1979	
225	『キング』創刊号	写真						東京大学大学院法学政治学研究科附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫蔵
225	『現代日本文学全集』	写真						当社所蔵
226	ちやぶ台を囲む家族	写真						共同通信社提供
226	全国中等学校優勝野球大会	写真						朝日新聞社提供
226	『羅生門』	写真						日本近代文学館蔵
226	『白樺』	写真						日本近代文学館蔵
226	『蟹工船』	写真						日本近代文学館蔵
226	新劇の舞台	写真						早稲田大学演劇博物館蔵
227	麗子微笑	写真						東京国立博物館蔵、ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)
227	生々流転	写真						東京国立近代美術館蔵、Photo:MOMAT/DNPartcom
227	旧帝国ホテル	写真						博物館明治村蔵
227	大原女	写真						山種美術館蔵

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
227	手	写真						東京国立近代美術館蔵、Photo:MOMAT/DNPartcom
228	銀行へおしかけた預金者たち	写真						朝日新聞社提供
229	北伐とその後の中国	地図						著者作成
229	張作霖爆殺事件	写真						山形新聞社提供
230	井上準之助	写真						日本銀行蔵
231	靫を集める子どもたち	写真						毎日新聞社提供
231	業種別払込資本金における財閥の占める度合い	グラフ	『三井・三菱の百年』	90～91	柴垣和夫	中央公論社	1968	左記出典を元に著者作成
231	ロンドン会議の全権若槻礼次郎	写真						毎日新聞社提供
232	満洲事変関係図	地図						著者作成
233	リットン調査団	写真						朝日新聞社提供
233	溥儀の執政就任式	写真						ユニフォトプレス提供
233	「五族協和」	写真	五族協和(國務院壁画)		岡田三郎助			函館市中央図書館蔵
233	五・一五事件の新聞記事	写真	『東京朝日新聞』				1932年5月16日号外	朝日新聞社提供
234	国際連盟臨時総会のように伝える新聞記事	写真	『東京朝日新聞』				1933年2月25日	朝日新聞社提供
235	工業生産額の内訳	グラフ	『長期経済統計10 鉱工業』	142～143	篠原三代平	東洋経済新報社	1972	左記出典を元に著者作成
235	天皇機関説事件を報じる新聞記事	写真	『東京朝日新聞』				1935年2月26日	朝日新聞社提供
236	二・二六事件 警視庁を占拠した兵士たち	写真						共同通信社提供
236	二・二六事件 アドバルーン	写真						朝日新聞社提供
237	枢軸国の指導者たち	写真						ユニフォトプレス提供
237	日独伊三国防共協定調印の祝賀会	写真						毎日新聞社提供
238	盧溝橋	写真	『大系 日本の歴史14』	238	江口圭一	小学館	1989	
238	日本軍の南京入城	写真						共同通信社提供
238	日中戦争関係図	地図						著者作成
238	近衛文麿	写真						国立国会図書館蔵
239	国家総動員法	史料	『官報』			内閣印刷局	第3371号 昭和13年4月1日	国立国会図書館デジタルコレクション
239	軍事費の増大と国家予算の膨張	グラフ	『長期経済統計1 国民所得』 『長期経済統計7 財政支出』	170～171 186～189	大川一司ほか 江見康一ほか	東洋経済新報社 東洋経済新報社	1974 1966	左記出典を元に著者作成
240	ぜいたく品全廃をかかげる街頭行進	写真						毎日新聞社提供
240	生活物資の配給に用いられた切符や通帳	写真						東京都江戸東京博物館蔵
241	第二次世界大戦中のヨーロッパ	地図						著者作成
241	日独伊三国同盟の調印	写真						毎日新聞社提供
242	大政翼賛会の発足	写真						共同通信社提供
242	軍需物資の国別輸入額	グラフ	『昭和史』	188	遠山茂樹ほか	岩波新書	1959(新版)	左記出典を元に著者作成
242	日・米の主要物資生産高比較	グラフ	『近現代日本経済史要覧 補訂版』	134	三和良一・原朗編	東京大学出版会	2010	左記出典を元に著者作成
243	ABCD包囲陣	図						著者作成
243	日本軍の奇襲をうけるハワイ真珠湾の米海軍基地	写真						毎日新聞社提供
243	東条英機	写真						国立国会図書館蔵
244	太平洋戦争関係図	地図						著者作成
245	大東亜会議の首脳たち	写真						共同通信社提供
245	勤労働員の女学生	写真						毎日新聞社提供
245	学徒出陣壮行会	写真						朝日新聞社提供
246	空襲による被災状況	地図	「太平洋戦争による我国の被害総合報告書」	32～49、141～144	経済安定本部総裁官房企画部調査課		1949	アジア歴史資料センター レファレンスコード:C14020087100 左記出典などを元に著者作成
246	ポツダム会談	写真						ユニフォトプレス提供
247	ポツダム宣言	史料	『日本外交年表並主要文書』下巻	626～627	外務省編	原書房	1965	
247	広島爆心地の惨状	写真						米軍撮影、広島平和記念資料館提供

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
248	戦後のおもな改革立法過程	表						著者作成
249	マッカーサー	写真						毎日新聞社提供
249	連合軍の日本管理機構	図						著者作成
250	東京裁判のようす	写真						毎日新聞社提供
250	財閥の株券引渡しにたち会うGHQ	写真						共同通信社提供
251	農地改革前後の変化	グラフ	『農林省統計表』第21次 『農林省統計表』第27次 『農地改革顛末概要』	4、5、35 5 646、647	農地改革記録委員会	農政タイムズ社	1944 1950 1951	左記出典を元に著者作成
251	労働組合数と推定組織率の推移	グラフ	『近現代日本経済史要覧 補訂版』	41	三和良一・原朗編	東京大学出版会	2010	左記出典を元に著者作成
251	戦前・戦後の学制の比較	図						著者作成
252	日本国憲法	史料	日本国憲法御署名原本				昭和21年11月3日	国立公文書館デジタルアーカイブ
253	女性の投票風景	写真						共同通信社提供
253	買出し列車	写真						朝日新聞社提供
253	吉田茂	写真						国立国会図書館蔵
254	戦後の通貨発行高と物価指数の推移	グラフ	『昭和国勢総覧』下巻	108、222	東洋経済新報社編	東洋経済新報社	1980	左記出典を元に著者作成
254	第二次世界大戦後のおもな同盟	地図						著者作成
255	中華人民共和国の成立	写真						ユニフォトプレス提供
256	朝鮮戦争	地図						著者作成
256	警察予備隊	写真						毎日新聞社提供
256	日本経済の復興と朝鮮特需	グラフ	『明治以降本邦主要経済統計』	92～93		日本銀行統計局	1966	左記出典を元に著者作成
257	サンフランシスコ平和条約	史料	『日本外交文書』	146～149	外務省編	外務省	2009	外務省外交史料館日本外交文書デジタルコレクション
257	サンフランシスコ平和条約の調印	写真						ユニフォトプレス提供
257	サンフランシスコ平和条約の規定による日本の領土	地図						著者作成
258	湯川秀樹	写真						読売新聞社提供
258	太宰治『斜陽』	写真						日本近代文学館蔵
258	大岡昇平『俘虜記』	写真						日本近代文学館蔵
258	映画「羅生門」のポスター	写真						「羅生門」©1950角川映画
258	美空ひばり	写真						ひばりプロダクション蔵
259	各国の核兵器の開発	表						著者作成
259	アジア=アフリカ会議	写真						毎日新聞社提供
260	自衛隊	写真						共同通信社提供
260	被爆した第五福竜丸	写真						毎日新聞社提供
260	映画「ゴジラ」のポスター	写真						1954年、©TOHO CO.,LTD.
261	社会党統一・保守合同後、最初の総選挙結果	グラフ	『第28回 衆議院議員総選挙一覧』	584～585		衆議院事務局	1958	国立国会図書館デジタルコレクション
261	日ソ共同宣言	史料	『わが外交の近況』昭和32年版(1号)外交青書	資料	外務省編	外務省	1957	外務省ウェブページ
261	日本の国連加盟	写真						朝日新聞社提供
262	日米相互協力及び安全保障条約	史料	『昭和35年御署名原本第10巻』	条約第6号				国立公文書館デジタルアーカイブ
263	日韓基本条約	史料	『昭和40年御署名原本第16巻』	条約第25号				国立公文書館デジタルアーカイブ
263	日韓基本条約の調印式	写真						毎日新聞社提供
263	沖縄のアメリカ軍基地	写真						ユニフォトプレス提供
263	沖縄のアメリカ軍専用施設分布図	地図						著者作成
264	戦後の経済成長率(実質)の推移	グラフ	『日本長期統計総覧』第3巻 「国民経済計算」	363、374～375	総務庁統計局監修	日本統計協会	1988	「国民経済計算」は内閣府ウェブページより。 左記出典を元に著者作成
264	産業別就業者数の推移(15歳以上)	グラフ	『近現代日本経済史要覧 補訂版』	7	内閣府 三和良一・原朗編	東京大学出版会	2010	左記出典を元に著者作成
265	家電などの普及率の推移	グラフ	「消費動向調査」		内閣府			左記出典を元に著者作成
265	東京オリンピック	写真						読売新聞社提供

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
265	名神高速道路と東海道新幹線	写真						共同通信社提供
265	公害の発生	写真						読売新聞社提供
266	日本万国博覧会	写真						朝日新聞社提供
266	手塚治虫「鉄腕アトム」	写真						©手塚プロダクション
267	ニクソンの中国訪問	写真						ユニフォトプレス提供
267	原油価格の推移	グラフ	BP Statistical Review of World Energy June 2019	Oil - Crude prices since 1861				BPウェブページより。左記出典を元に著者作成
267	石油危機による買占め騒動	写真						ユニフォトプレス提供
268	日中共同声明の発表	写真						共同通信社提供
268	日中共同声明	史料	『わが外交の近況』昭和48年版(17号)外交青書	第3部 I 資料 3-(11)	外務省編	外務省	1973	外務省ウェブページ
268	自動車工場の溶接ロボット							トヨタ自動車提供
269	冷戦の終結	写真						ユニフォトプレス提供
269	「ベルリンの壁」の崩壊	写真						ユニフォトプレス提供
270	ペルシア湾に派遣された日本の掃海部隊	写真						共同通信社提供
271	細川内閣の発足を報じる新聞記事	写真	『読売新聞』				1993年8月7日	読売新聞社提供
271	円・ドル為替相場の変動	グラフ	『近現代日本経済史要覧 補訂版』	159	三和良一・原朗編	東京大学出版会	2010	左記出典を元に著者作成
271	バブル経済	グラフ	『近現代日本経済史要覧 補訂版』	185	三和良一・原朗編	東京大学出版会	2010	左記出典を元に著者作成
273	東日本大震災の翌日の新聞記事	写真	『朝日新聞』				2011年3月12日	朝日新聞社提供
274	江戸のおもな神社の祭礼	表	『江戸天下祭の研究』	38～43	岸本雅範	岩田書院	2017	左記出典を元に著者作成
275	近世初期の神田祭	史料	「異本武江披砂」『神田神社御由緒書』		大田南畝			
275	氏子町々の山車のようす	写真	「神田祭出しづくし」					東京都江戸東京博物館蔵
275	附け祭	写真	『神田明神祭礼図巻』					神田神社蔵
276	江戸時代後期の神田祭巡行路	写真	『江戸天下祭の研究』	315	岸本雅範	岩田書院	2017	神田神社蔵「泰平御江戸図」に、左記出典を参照して作成
276	明治時代の神田祭巡行路	写真	神幸路次之図					神田神社蔵
276	祭礼の担い手の変化	グラフ	「都市祝祭伝統の持続と変容」『応用社会学研究』35 「都市祭りの経年的変化」『國學院雑誌』第116巻11号	53・57 36	松平誠 秋野淳一	立教大学社会学部 國學院大學	1993 2015	左記出典などを元に著者作成
277	祭礼の参加者数に占める町内企業の割合	グラフ	「都市祭りの経年的変化」『國學院雑誌』第116巻11号	38	秋野淳一	國學院大學	2015	左記出典を元に著者作成
277	衆議院議員の世代別投票率の推移	グラフ	総務省「衆議院議員総選挙における年代別投票率の推移」					左記出典を元に著者作成
277	政府に対する要望	グラフ	内閣府「国民生活に関する世論調査 概略版」2024年8月調査					左記出典を元に著者作成
278	当選者の平均年齢	グラフ						著者作成
278	雇用形態・年齢・性別による賃金の差	グラフ	厚生労働省「令和5年賃金構造基本統計調査の概況」					左記出典を元に著者作成
278	食料自給率の推移	グラフ	農林水産省「総合食料自給率(カロリー・生産額)、品目別自給率等」					左記出典を元に著者作成
279	3品目の輸入量の変化	グラフ	農林水産省「農林水産物輸出入概況」					左記出典を元に著者作成

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
279	みかんの栽培面積と生産量の推移	グラフ	農林水産省『耕地及び作付面積統計』『果樹生産出荷統計』、清水徹朗「みかんの需給動向とみかん農業の課題」『農林金融』2002年8月号					左記出典を元に著者作成
279	イチゴ輸出解禁の記事	写真	『朝日新聞』				2021年3月2日	朝日新聞社提供

- (備考) 1 「申請図書」の欄については次のとおりとする。
- ① 「ページ」の欄には、引用又は新たに作成した教材や資料等の申請図書における掲載ページを示す。
 - ② 「名称」の欄には、引用した教材や資料等の申請図書における名称を示す。
 - ③ 「種別」の欄には、国語教材、楽譜、写真、図、挿絵、表、グラフ、地図などの別を示す。
- 2 「出典」の欄については次のとおりとする。
- ① 出典が一般図書の場合は、当該図書の名称（版次を含む。）、掲載ページ、著作者・編集者等、発行者及び発行年次を各欄に示す。
 - ② 出典が定期行物の場合は、発行年次等欄に巻号、発行月日等を示す。
 - ③ 出典が図書でない場合には、備考欄に資料提供者や所有者の氏名又は名称、及び当該資料に付された整理番号等を示すなど、出典を確認することが可能な情報を記入する。
- 3 出典を基に申請図書の発行者が改変を行った場合又は新たに作成を行った場合は、「備考」欄にその旨を示す。
- 4 (1) 写真等については、肖像権等の権利処理を必要に応じて行うこと。
- (2) 著作物の掲載に当たっては、著作権法第33条に基づき、掲載する旨を著作者に通知するとともに、補償金を著作権者に支払う必要があることに留意すること（別途契約を締結する場合を除く）。

備考4の内容について確認しました。

ウェブサイトのアドレスの掲載箇所一覧表

申請図書			学習上の参考に供する情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
1	4	URL 2次元コード	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク (各コンテンツへリンクさせるためのメニューページ)	別紙1
2	9	2次元コード	自社ページ NHK for School	自社ページURL https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005403008_00000	貝塚を紹介する動画	別紙2
3	14	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	『漢書』地理志の現代語訳	別紙3
4	14	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	『後漢書』東夷伝の現代語訳	別紙4
5	15	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	「魏志」倭人伝の現代語訳	別紙5
6	23	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	倭王武の上表文の現代語訳	別紙6
7	26	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	憲法十七条の現代語訳	別紙7
8	27	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	遣隋使の派遣の現代語訳	別紙8
9	30	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	改新の詔の現代語訳	別紙9
10	36	2次元コード	自社ページ NHK for School	自社ページURL https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005403017_00000	木簡を紹介する動画	別紙10

11	36	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	国分寺建立の詔の現代語訳	別紙11
12	36	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	大仏造立の詔の現代語訳	別紙12
13	37	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	三世一身法の現代語訳	別紙13
14	37	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	墾田永年私財法の現代語訳	別紙14
15	49	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	藤原氏の栄華の現代語訳	別紙15
16	51	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	尾張国郡司百姓等解の現代語訳	別紙16
17	53	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	『往生要集』の序文の現代語訳	別紙17
18	58	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	記録荘園券契所の設置の現代語訳	別紙18
19	63	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	平氏の繁栄の現代語訳	別紙19
20	69	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	一遍上人絵伝（巻7）	別紙20
21	70	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	洛中洛外図屏風	別紙21
22	73	2次元コード	自社ページ NHK for School	自社ページURL https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005403026_00000	鎌倉街道と切通を紹介する動画	別紙22

23	76	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	御成敗式目の現代語訳	別紙23
24	76	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	式目制定の趣旨（北条泰時書状）の現代語訳	別紙24
25	81	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	紀伊国阿氏河荘民の訴状の現代語訳	別紙25
26	81	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	永仁の徳政令の現代語訳	別紙26
27	82	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	悪人正機—『歎異抄』の現代語訳	別紙27
28	87	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	二条河原落書の現代語訳	別紙28
29	88	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	一三五二年の半済令の現代語訳	別紙29
30	93	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	惣掟の現代語訳	別紙30
31	94	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	正長の徳政一揆の現代語訳	別紙31
32	95	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	山城の国一揆の現代語訳	別紙32
33	95	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	加賀の一向一揆の現代語訳	別紙33
34	104	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	家法・分国法の現代語訳	別紙34

35	105	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	自由都市堺について（ガスパル=ヴィレラ書簡）の現代語訳	別紙35
36	110	2次元コード	自社ページ NHK for School	自社ページURL https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005403061_00000	安土城跡を紹介する動画	別紙36
37	113	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	刀狩令の現代語訳	別紙37
38	113	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	バテレン追放令の現代語訳	別紙38
39	122	2次元コード	自社ページ 国立歴史民俗博物館	自社ページURL https://www.rekihaku.ac.jp/education_research/gallery/webgallery/edozu/index.html	江戸凶屏風を紹介するページ	別紙39
40	123	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	武家諸法度（元和令）の現代語訳	別紙40
41	124	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	武家諸法度（寛永令）の現代語訳	別紙41
42	125	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	禁中並公家諸法度の現代語訳	別紙42
43	127	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	一六四二（寛永十九）年五月の村々への法令の現代語訳	別紙43
44	127	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	一六四三（寛永二十）年三月の田畑永代売買を禁ずる法令の現代語訳	別紙44
45	130	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	寛永十二年禁令の現代語訳	別紙45
46	130	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	寛永十六年禁令の現代語訳	別紙46

47	134	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	武家諸法度（天和令）の現代語訳	別紙47
48	147	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	大名の窮乏の現代語訳	別紙48
49	153	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	海防論の現代語訳	別紙49
50	155	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	異国船打払令（無二念打払令）の現代語訳	別紙50
51	157	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	株仲間の解散の現代語訳	別紙51
52	159	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	本多利明の貿易論の現代語訳	別紙52
53	160	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	富嶽三十六景のうち10図	別紙53
54	166	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	日米修好通商条約の現代語訳	別紙54
55	171	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	王政復古の大神令（慶応三年十二月九日）の現代語訳	別紙55
56	173	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	五箇条の誓文の現代語訳	別紙56
57	174	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	民撰議院設立の建白書の現代語訳	別紙57
58	179	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	徴兵告諭の現代語訳	別紙58

59	182	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	学事奨励に関する太政官布告（被仰出書）の現代語訳	別紙59
60	188	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	保安条例の現代語訳	別紙60
61	189	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	大日本帝国憲法の現代語訳	別紙61
62	201	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	尾崎行雄の議会演説の現代語訳	別紙62
63	203	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	二十一カ条の要求の現代語訳	別紙63
64	205	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	吉野作造の民本主義の現代語訳	別紙64
65	211	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	治安維持法の現代語訳	別紙65
66	214	2次元コード	自社ページ NHK for School	自社ページURL https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005403080_00000	八幡製鉄所を紹介する動画	別紙66
67	234	2次元コード	自社ページ NHK for School	自社ページURL https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005311603_00000	円高・円安を紹介する動画	別紙67
68	239	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	国家総動員法の現代語訳	別紙68
69	247	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	ポツダム宣言の現代語訳	別紙69



別紙 1-1

別紙 1-3

別紙 1-2

別紙 1-4

	史料の現代語訳	重要年代チェック	歴史資料
---	---------	----------	------

現代語訳を確認

史料の現代語訳



第1部

原始・古代

p.14 『漢書』地理志	☞
p.14 『後漢書』東夷伝	☞
p.15 「魏志」倭人伝	☞
p.23 倭王武の上表文	☞
p.26 憲法十七条	☞
p.27 遣隋使の派遣	☞
p.30 改新の詔	☞
p.36 大仏造立の詔	☞

別紙 1-1-1 (教科書ポータルサイトの「史料の現代語訳」一覧)

ページ	学 習 上 の 参 考 に 供 す る 情 報			備 考
	参照先	URL	概要	
14	自社ページ	自社ページ URL	『漢書』地理志の現代語訳	別紙 3
14	自社ページ	自社ページ URL	『後漢書』東夷伝の現代語訳	別紙 4
15	自社ページ	自社ページ URL	「魏志」倭人伝の現代語訳	別紙 5
23	自社ページ	自社ページ URL	倭王武の上表文の現代語訳	別紙 6
26	自社ページ	自社ページ URL	憲法十七条の現代語訳	別紙 7
27	自社ページ	自社ページ URL	遣隋使の派遣の現代語訳	別紙 8
30	自社ページ	自社ページ URL	改新の詔の現代語訳	別紙 9
36	自社ページ	自社ページ URL	国分寺建立の詔の現代語訳	別紙 11
36	自社ページ	自社ページ URL	大仏造立の詔の現代語訳	別紙 12
37	自社ページ	自社ページ URL	三世一身法の現代語訳	別紙 13

ページ	学 習 上 の 参 考 に 供 す る 情 報			備 考
	参照先	URL	概要	
37	自社ページ	自社ページ URL	壘田永年私財法の現代語訳	別紙 14
49	自社ページ	自社ページ URL	藤原氏の栄華の現代語訳	別紙 15
51	自社ページ	自社ページ URL	尾張国郡司百姓等解の現代語訳	別紙 16
53	自社ページ	自社ページ URL	『往生要集』の序文の現代語訳	別紙 17
58	自社ページ	自社ページ URL	記録荘園券契所の設置の現代語訳	別紙 18
63	自社ページ	自社ページ URL	平氏の繁栄の現代語訳	別紙 19
76	自社ページ	自社ページ URL	御成敗式目の現代語訳	別紙 23
76	自社ページ	自社ページ URL	式目制定の趣旨（北条泰時書状）の現代語訳	別紙 24

ページ	学 習 上 の 参 考 に 供 す る 情 報			備 考
	参照先	URL	概要	
81	自社ページ	自社ページ URL	紀伊国阿氏河荘民の訴状の現代語訳	別紙 25
81	自社ページ	自社ページ URL	永仁の徳政令の現代語訳	別紙 26
82	自社ページ	自社ページ URL	悪人正機—『歎異抄』の現代語訳	別紙 27
87	自社ページ	自社ページ URL	二条河原落書の現代語訳	別紙 28
88	自社ページ	自社ページ URL	一三五二年の半済令の現代語訳	別紙 29
93	自社ページ	自社ページ URL	惣掟の現代語訳	別紙 30
94	自社ページ	自社ページ URL	正長の徳政一揆の現代語訳	別紙 31
95	自社ページ	自社ページ URL	山城の国一揆の現代語訳	別紙 32
95	自社ページ	自社ページ URL	加賀の一向一揆の現代語訳	別紙 33
104	自社ページ	自社ページ URL	家法・分国法の現代語訳	別紙 34
105	自社ページ	自社ページ URL	自由都市堺について（ガスパル=ヴィレラ書簡）の現代語訳	別紙 35

ページ	学 習 上 の 参 考 に 供 す る 情 報			備 考
	参照先	URL	概要	
113	自社ページ	自社ページ URL	刀狩令の現代語訳	別紙 37
113	自社ページ	自社ページ URL	バテレン追放令の現代語訳	別紙 38
123	自社ページ	自社ページ URL	武家諸法度（元和令）の現代語訳	別紙 40
124	自社ページ	自社ページ URL	武家諸法度（寛永令）の現代語訳	別紙 41
125	自社ページ	自社ページ URL	禁中並公家諸法度の現代語訳	別紙 42
127	自社ページ	自社ページ URL	一六四二（寛永十九）年五月の村々への法令の現代語訳	別紙 43
127	自社ページ	自社ページ URL	一六四三（寛永二十）年三月の田畑永代売買を禁ずる法令の現代語訳	別紙 44
130	自社ページ	自社ページ URL	寛永十二年禁令の現代語訳	別紙 45
130	自社ページ	自社ページ URL	寛永十六年禁令の現代語訳	別紙 46
134	自社ページ	自社ページ URL	武家諸法度（天和令）の現代語訳	別紙 47
147	自社ページ	自社ページ URL	大名の窮乏の現代語訳	別紙 48

ページ	学 習 上 の 参 考 に 供 す る 情 報			備 考
	参照先	URL	概要	
153	自社ページ	自社ページ URL	海防論の現代語訳	別紙 49
155	自社ページ	自社ページ URL	異国船打払令（無二念打払令）の現代語訳	別紙 50
157	自社ページ	自社ページ URL	株仲間の解散の現代語訳	別紙 51
159	自社ページ	自社ページ URL	本多利明の貿易論の現代語訳	別紙 52
166	自社ページ	自社ページ URL	日米修好通商条約の現代語訳	別紙 54
171	自社ページ	自社ページ URL	王政復古の大号令（慶応三年十二月九日）の現代語訳	別紙 55
173	自社ページ	自社ページ URL	五箇条の誓文の現代語訳	別紙 56
174	自社ページ	自社ページ URL	民撰議院設立の建白書の現代語訳	別紙 57
179	自社ページ	自社ページ URL	徴兵告諭の現代語訳	別紙 58

ページ	学 習 上 の 参 考 に 供 す る 情 報			備 考
	参照先	URL	概要	
182	自社ページ	自社ページ URL	学事奨励に関する太政官布告(被仰出書)の現代語訳	別紙 59
188	自社ページ	自社ページ URL	保安条例の現代語訳	別紙 60
189	自社ページ	自社ページ URL	大日本帝国憲法の現代語訳	別紙 61
201	自社ページ	自社ページ URL	尾崎行雄の議会演説の現代語訳	別紙 62
203	自社ページ	自社ページ URL	二十一カ条の要求の現代語訳	別紙 63
205	自社ページ	自社ページ URL	吉野作造の民本主義の現代語訳	別紙 64
211	自社ページ	自社ページ URL	治安維持法の現代語訳	別紙 65
239	自社ページ	自社ページ URL	国家総動員法の現代語訳	別紙 68
247	自社ページ	自社ページ URL	ポツダム宣言の現代語訳	別紙 69

時代区分	年代	出来事
弥生	57年	倭の奴国王の使者が後漢の都洛陽におもむき、光武帝より印綬を受ける（『後漢書』東夷伝）。
	239年	邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号と金印、多数の銅鏡などを贈られる（『魏志』倭人伝）。
古墳	391年	倭が高句麗と交戦（広開土王碑の碑文）。
	538年	欽明天皇の時に百濟の聖明王から仏像や経論が伝えられる（仏教伝来、『上宮聖徳法王帝説』）。※552年説（『日本書紀』）もある。
飛鳥	593年	推古天皇のもと、厩戸王が政務に参加する。
	603年	個人の才能・功績に対して冠位を与える冠位十二階を制定。
	604年	豪族たちに国家の官僚としての自覚を求めるとともに、仏教を新しい政治理念として重

別紙 1-2-1

別紙 1-2-2

時代区分	年代	出来事
弥生	年	倭の奴国王の使者が後漢の都洛陽におもむき、光武帝より印綬を受ける（『後漢書』東夷伝）。
	年	邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号と金印、多数の銅鏡などを贈られる（『魏志』倭人伝）。
古墳	年	倭が高句麗と交戦（広開土王碑の碑文）。
	年	欽明天皇の時に百濟の聖明王から仏像や経論が伝えられる（仏教伝来、『上宮聖徳法王帝説』）。※552年説（『日本書紀』）もある。
飛鳥	年	推古天皇のもと、厩戸王が政務に参加する。
	年	個人の才能・功績に対して冠位を与える冠位十二階を制定。
	年	豪族たちに國家の官位としての自尊を求めるとともに、仏教を新しい政治理念として重

		史料の現代語訳	重要年代チェック	歴史資料
重要年代を確認 重要年代チェック				
全表示		年代チェック		事項チェック
時代区分	年代	出来事		
弥生	57年	倭の [] の使者が後漢の都洛陽におもむき、光武帝より印綬を受ける（ [] 東夷伝）。		
	239年	邪馬台国の [] が魏に使いを送り、「 [] 」の称号と金印、多数の銅鏡などを贈られる（ [] 倭人伝）。		
古墳	391年	倭が [] と交戦（広開土王碑の碑文）。		
	538年	欽明天皇の時に [] の聖明王から仏像や経論が伝えられる（仏教伝来、『上宮聖徳法王帝説』）。※552年説（『日本書紀』）もある。		
飛鳥	593年	推古天皇のもと、 [] が政務に参加する。		
	603年	個人の才能・功績に対して冠位を与える [] を制定。		
	645年	孝徳天皇は、国司の官位として、官職を定めることにより、行政を一新し、政治理念として重		

	史料の現代語訳	重要年代チェック	歴史資料
教科書関連資料 歴史資料			
			
p.9	[動画] 貝塚		☞
p.36	[動画] 木簡		☞
p.69	[画像] 一遍上人絵伝(巻7)		☞
p.70	[画像] 洛中洛外図屏風		☞
p.73	[動画] 鎌倉街道と切通		☞
p.110	[動画] 安土城跡		☞
p.122	[画像] 江戸図屏風		☞
p.160	[画像] 富士三十六景		☞
p.214	[動画] 八幡製鉄所		☞
p.234	[動画] 円高・円安とは?		☞

別紙 1-3-1 (教科書ポータルサイトの「歴史資料」一覧)

ページ	学 習 上 の 参 考 に 供 す る 情 報			備 考
	参照先	URL	概要	
9	自社ページ	自社ページ URL	貝塚を紹介する動画	別紙 2
	NHK for School	https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005403008_00000		外部リンク
36	自社ページ	自社ページ URL	木簡を紹介する動画	別紙 10
	NHK for School	https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005403017_00000		外部リンク
69	自社ページ	自社ページ URL	一遍上人絵伝 (巻 7)	別紙 20
70	自社ページ	自社ページ URL	洛中洛外図屏風	別紙 21
73	自社ページ	自社ページ URL	鎌倉街道と切通を紹介する動画	別紙 22
	NHK for School	https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005403026_00000		外部リンク
110	自社ページ	自社ページ URL	安土城跡を紹介する動画	別紙 36
	NHK for School	https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005403061_00000		外部リンク

ページ	学習上の参考に供する情報			備考
	参照先	URL	概要	
122	自社ページ	自社ページ URL	江戸図屏風	別紙 39
	国立歴史民俗博物館	https://www.rekihaku.ac.jp/education_research/gallery/webgallery/edozu/index.html		外部リンク
160	自社ページ	自社ページ URL	富嶽三十六景のうち 10 図	別紙 53
214	自社ページ	自社ページ URL	八幡製鉄所を紹介する動画	別紙 66
	NHK for School	https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005403080_00000		外部リンク
234	自社ページ	自社ページ URL	円高・円安を紹介する動画	別紙 67
	NHK for School	https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005311603_00000		外部リンク

利用規約

本サイトのコンテンツは、教科書または副教材の参考教材として **会社名掲載** 以下当社という) が用意したものです。学校内での授業や自宅学習などの用途以外での利用はご遠慮ください。

著作権について

本サイトおよびリンク先のサイトに掲載されているコンテンツ（文章、写真、図表、画像、音声、映像など）の著作権および著作者人格権は、当社または各コンテンツの権利者に帰属しています。これらのコンテンツの複製、改変、公衆送信（送信可能化を含む。）、上映、頒布（譲渡・貸与）、翻案、翻訳などは、著作権法で認められる場合を除き、当社および各コンテンツの権利者から事前の許諾を得ることなく行うことはできません。また、（許可のない）本サイトへのリンクについてはご遠慮ください。

免責事項

当社は、本サイトの内容に関して、その正確性、および利用者のいかなる利用目的への適合性・妥当性について保証するものではありません。また、当社および他の著作者・制作者は、本サイトに關し、利用者が生じた、損害、損失、請求その他の責任についても一切責任を負いません。

その他

本サイトは、事前に通知することなく、本サービスの内容を変更または終了することがあります。本サイトにおいて外部サイトへのリンクを掲載することがありますが、当社はリンク先の外部サイトの内容等には責任を負いません。

また、本サイトの利用に際してコンテンツ使用料は発生しませんが、通信料がかかります。

本サイトを利用することで、上記について確認し同意したものとみなします。

会社名掲載

コピーライト掲載

NHK for School

貝塚



この資料は上の画像をクリックして遷移先の外部サイトで参照してください

(教科書名入る) p.9

貝塚

YJHE102600

提供元 : NHK for School

『漢書』地理志

楽浪郡らくろうから海をへだてたところに倭人わじんが住んでおり、百余りの小国にわかれている。定期的におとずれ、貢ぎ物みつものを献上するという。

『後漢書』東夷伝

建武中元二（五七）年、倭の奴国なこくが朝貢ちやうこうのためにおとずれた。使者は自分自身を大夫たいふと名乗った。奴国は倭のもつとも南にある国である。光武帝こうぶていは、奴国の王に印と（印を身につけるための）ひもを授与した。安帝あんていの永初元（一〇七）年、倭の国王帥すいしやう升等しやうとうが、奴隸どれい一六〇人を献上し、お目にかかりたいと願った。桓帝かんでいと靈帝れいていの時代（一四七〜一八九年）には、倭の国内に大乱がおこり、長い間戦いが続き、おさめる者がいなかった。

「魏志」倭人伝

〔位置〕 倭人は帯方郡たいほうぐんの東南方向の海の中にある山の多い島に住み、国や邑むらを形成している。もとは百余りの国にわかれ、漢の時に朝貢ちやうこうしていた。現在、使者を派遣しているところは三〇カ国である。（航海を続けたり、陸上を行ったりして）……邪馬台国やまたいこくにたどりつく。女王が都みやこにしている国である。

〔統治組織・社会〕 租税を徴収し、それをおさめる倉庫がある。国々に市があつてそこで交易をおこない、……女王国

から北には、とくに一大率^{いちだいでそつ}をおき、諸国を監督^{かんとく}させている。諸国はこれをおそればかつては……下戸^{げこ}が大人^{たいじん}と道路であうと、しりごみしながら草むらへ入り、話をする場合は、うずくまったり跪^{ひざまず}いたりし、両手を地につけ、恭敬^{きやうけい}の態度を示す。……

「卑弥呼」その国(倭のこと)では、以前は男王を立てて七、八〇年を経過したが、国内が乱れ何年間も戦争が続いたので、諸国が共同で一人の女子を王として立てた。この女王の名を卑弥呼^{ひみこ}といい、呪術^{じゆじゆつ}をおこない、多くの人に自分の占いを

信じさせている。すでに成人しているが、夫はなく、弟が政治を補佐している。……

〔対魏交渉〕 景初三（二三九）年六月、倭の女王が大夫の難升米らを帯方郡につかわし、（魏の）天子にお目にかかって朝貢することを求めた。……その年の十二月、（魏の皇帝は）詔書を下して倭の女王に、「……今あなたを親魏倭王とし、紫のひもをつけた金印をさづけ、封をして帯方郡の長官に託して授与する。……」と告げた。

〔卑弥呼後〕 卑弥呼が死ぬと、大きい墓をつくった。その

直径は百余歩で、卑弥呼に殉死した奴隷は百余人であった。
その後、男子の王が即位したが国を支配できず、たがいに殺
し合う内乱で千余人が殺された。卑弥呼の一族の女で一三歳
の耆与が女王になると国中がやっとおさまった。

倭王武の上表文

興こうが死んで弟の武ぶが王位についた……

順帝じゆんていの昇明二(四七八)年、武は使者を派遣して、(順帝に)文書を奉り、つぎのように述べた。「私の国は中国からはるか遠いところを領域としています。昔から私の祖先は、みづから甲冑かっちゆうを着け、山をこえ川を渡って各地で戦い、休む暇もありませんでした。そして東は毛人もうじんの五五国、西は衆夷しゆういの六六国を征服し、さらに海をこえて北方の九五国を平定しました。……」。 (順帝は)詔みことりを下して、武を使持節都督

倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事安東大將軍倭王に任命した。

(『宋書』倭国伝)

憲法十七条

一にいう。和を大切にし、反抗したりすることのないのを基本と心がけよ。

二にいう。あつく仏教をうやまえ。

三にいう。天皇の詔みことりをうけたならば必ず従え。

十二にいう。国このみこどもち司このみやつこや国造は人民から不当に税をとらないようにせよ。国に二人の君主はなく、民に二人の主人

はない。この国土のすべての民は天皇をもって主人として
いるのである。

十七にいう。ものごとを独断でおこなってはならない。必ず
皆と議論するようにせよ。

(『日本書紀』)

遣隋使の派遣

大業三(六〇七)年、倭王の多利思比孤が使者を派遣して朝貢してきた。使者はこう述べた。「海西の菩薩天子が前代に栄えた仏法をさらにさかんにしていると耳にしました。そこで私を派遣して天子に対する礼をつくし、同時に僧侶も数十人、仏法を学ばせるために同行させました」。その国書には「太陽ののぼるところの国の天子が、太陽の沈むところの国の天子に手紙を差し上げます。お変わりありませんか」と書かれていた。帝(煬帝)はこの国書を見て不機嫌になり、

鴻臚卿に「蛮夷の国からの書に無礼なものがあつたならば、二度と奏上するな」と命じた。

(『隋書』倭国伝)

改新の詔

第一条にいう。「昔の天皇たちが設けた子代や各地の屯倉、
 および臣・連・伴造・国造・村首ら諸豪族が支
 配する部曲や各地の田荘を廃止せよ。これに伴い、大夫
 以上には、それぞれの地位に応じて食封(給与)を与えるこ
 とにする。」

第二条にいう。「はじめて都をつくり、畿内・国司・郡司お
 よび関塞・斥候・防人・駅馬・伝馬を設置し、駅鈴や木
 契をつくり、国や郡の境となる山河を定めよ。」

第三条にいう。「はじめて戸籍・計帳・班田収授の法をつ
 くれ。」

第四条にいう。「これまでの税制を廃止して、一定基準で田
 地への税制を施行せよ。……それとは別に戸ごとに税を徴
 収せよ。」

(『日本書紀』)

NHK for School

木簡



この資料は上の画像をクリックして遷移先の外部サイトで参照してください

(教科書名入る) p.36

木簡

YJHE102700
提供元：NHK for School

国分寺建立の詔

(聖武天皇は) 詔 みことのり の中でつぎのように述べられた。「…
…諸国に命じてそれぞれの国に七重塔一基を建立し、金光 こんこう
明最勝王経・妙法蓮華経各一部を写させよ。…僧寺 みょうさいししやうおうきやう
には必ず僧二〇人をおき、金光明四天王護国の寺と名づけ、
尼寺には尼僧一〇人をおき、法華滅罪の寺と名づけ、両寺と ほっけめつざい
もに仏の教えと戒律を伝えよ…。」と。

(『続日本紀』)

大仏造立の詔

(聖武天皇は) みことのり 詔の中でつぎのように述べられた。「…
…天平十五年十月十五日をもって、人びとを救済しようとい
う仏弟子としての願いをおこして、盧舎那仏るしやなぶつの金銅像一体を
つくることにした。…天下の富をもつ者は私であり、天下
の勢いをもつ者も私である。この富と勢いをもって仏の尊像
をつくる。……」と。

(『続日本紀』)

三世一身法

太政官だいじょうかんはつぎのように天皇に奏上そうじょうした。「最近、人口がしだいに増加したのに対し、田や池は少なく不足しています。そこで、全国の人民に田地の開墾をすすめおこなわせたいと思います。その場合、あらたに溝や池をつくって開墾した者があれば、開墾地の多少にかかわらず三代にわたって所有を許し、すでにある溝や池を利用して開墾した時には本人一代のみに所有を許すことにしましょう」と。

(『続日本紀』)

墾田永年私財法

天皇はつぎのような詔みことこのりを下した。「聞くところによると、墾田は養老七（七二二）年の格きやくによって、期限が過ぎたら一般の公地と同様に収公してきたが、このため農民が意欲を失い、せつかく開墾した土地が再び荒廃してしまうという。今後は、開墾者が自由に私有地とすることを認め、三世一身という期限にかかわりなく、すべて永久に回収してはならない。……」と。

（『続日本紀』）

藤原氏の栄華

(寛仁二(一〇一八)年)十月十六日乙巳、今日は女御の藤原威子いしを皇后こうごうに立てる日である。……太閤たいこう(道長みちなが)が私をまねいて「和歌を詠よもうと思うが、君も必ず返歌を詠め」というので、「きつと返歌をお詠よみいたしましょう」と答えた。するとまた、「今日のことを誇たからしく思おもってつくった歌だが、あらかじめつくっておいたものではない。」と行って、「この世の中はまるで自分の世のようだ。満月まんげつが欠けるところのないように(自分の望みでかなわぬものがない)」と歌つ

た。

(『小右記』)

尾張国郡司百姓等解

尾張国おわりのくにの郡司ぐんじと百姓ひやくしやうが太政官だいじやうかんの裁決を申請すること

当国かみの守もとながである藤原元命もとなががこの三カ年の間におこなった
非法な徴税と不法行為に関する三カ条さんかじょう(の訴え状)につ
いて裁決をお願いします。

一 一 ……決まった額すいごの出拳しゅけんのほかに、三年間に正税しょうぜい四三
万一二四八束の利息として一二万九三七四束そく四把わ一分を
徴収したことに付いて裁断して下さい。……

一 30 ……国守元命が、京からこの国へ下ってくるたびに、

有官ゆうくわん(官位のある者)や散位さんゐ(位階のみもつ者)の従者や、よ
からぬ者たちを引きつけてくることについて裁断して下
さい。……どうか元命朝臣を解任して良吏を新しい国守に
任命し、……。

永延二(九八八)年十一月八日

郡司百姓等

『往生要集』の序文

極楽ごくらくに往生おうじょうするための教えと修行は、にぎった末法まつぽうの世の中の道標みちすゑとなるものである。出家しゅっけした人も俗人も、身分が高い人も低い人も、皆この教えには帰依きえするであろう。これまでこれまでの仏教は、経文が一つではなく、成仏するための修行もまた多い。知恵があり仏道に励むことができる人ならば困難くわんではないだろうが、私のような愚かな者には到底できないことである。

こうした理由で、念仏の教えに限って、経論きょうろんの中の重要

な部分を集めてみた。この書を開いて学べば、教えもわかりやすく、修行もおこないやすいであろう。

記録莊園券契所の設置

この後三条天皇の時に、……延久の記録所というものはじめて設けられたのは、全国にある私領(莊園)が、宣旨や官符で認められたわけでもないのに公領をかすめ取っており、それが大変な害悪だとずっとお聞きになってきたからだ。とくに宇治殿(藤原頼通)の時に、「摂関家の御領だ、摂関家の御領だ」といって諸国に莊園があふれ、受領の任務が果たせないなどという不満の声を、御耳にとめておいでになったからだろう。

(『愚管抄』)

平氏の繁栄

六波羅殿ろくはらのとのの一家のご子息たちといえば、たとえ花族かしよくや英雄えいゆうなどの(摂関家につぐ)名門の貴族でさえ、肩を並べる人がいない。だから入道相国にゆうどうしやうこく(清盛きよもり)の妻の弟の大納言時忠卿だいなごんときただきやうは「平家一門でない者は人ではない」と高言された。……

日本全国はわずかに六六カ国であるが、平家の知行国ちぎきやうは三十余カ国で全国の半数をこえている。そのほかに(平家所有の)荘園や田畠はどれほどあるかわからない。

(『平家物語』)



一遍上人絵伝（巻7）⑩



↓ ダウンロード

☒ 全画面モード

(教科書名入る) p.69

一遍上人絵伝（巻7）

YJHA110000

提供元：東京国立博物館（ColBase）



洛中洛外図屏風右隻全体



全画面モード

(教科書名入る) p.70

洛中洛外図屏風

YJHA110100

提供元：米沢市（上杉博物館）

NHK for School

鎌倉街道と切通



この資料は上の画像をクリックして遷移先の外部サイトで参照してください

(教科書名入る) p.73
鎌倉街道と切通

YJHE102800
提供元：NHK for School

御成敗式目

一 3、諸国守護人の職務・権限のこと

このことについて、右大将家(源頼朝)の時代に定められたのは、大番役の催促、謀叛人・殺害人(夜討ち・強盗・山賊・海賊を付け加える)の逮捕の事柄である。

一 5、諸国の地頭が年貢をおさえとどめていること

このように年貢をおさえとどめ、本所へ年貢を送ってこないとこの本所(荘園領主)側からの訴えがあれば、ただちに決算をして、荘園領主の監査を受けなければならない。

一 8、御下文くだしづみをもっているにもかかわらず、実際の土地支配をおこなわないまま相当期間の年数を経た所領のこと
これについては、現実に支配した後、二〇年を過ぎた場合には、大将家(源頼朝)時代の慣例により、権利の正当性のいかんにかかわらず、現在土地を支配している者をやめさせることはしない。

一 23、女性が養子を迎えること

これについては、律令の趣旨からすれば許されないが、大将家(源頼朝)の時代から今日に至るまで、子のいない女性

が所領を養子に譲与することは、武家社会の変わらぬ慣習として数えきれないほどある。

式目制定の趣旨(北条泰時書状)

さて、この式目をつくったことについては、なにを根拠として書かれたのかと、朝廷の人びとはきつと非難するでしょう。たしかにこれといった典拠はないのですが、ただ道理でおしはかるところを書いたのです。……この式目は仮名だけを知っている人が世間には多いので、……武士の便宜のためにつくったというほどのものです。これによって京都の朝廷での取決めや律令の規定が少しでも改まるようなことがあってはなりません。

(御成敗式目唯浄裏書)

紀伊国阿氏河荘民の訴状

阿氏河荘上村の百姓らが謹んで申し上げます。

一、(納入が遅れている)御材木のございですが、地頭が上京するのだから、近所での人夫役とかと申して、このように荘民を人夫として、地頭の方で責め使われますので、私たちに労力と時間がないのでございます。それに使われずにわずかに残った人夫を、山から材木を運び出すために出発させたのですが、(地頭が)逃亡農民の耕地に麦をまけといつて追い返してしまいました。「お前たちがこの麦

をまかなければ、妻子どもを家に閉じ込め、耳を切り鼻をそぎ、髪を切つて尻にして、縄でしばつて苦しめるぞ」と、厳しく責め立てますので、御材木の運搬はますます遅れてしまったのでございます。

(『高野山文書』)

永仁の徳政令

一²、質入れしたり、売買した所領のこと

これについて、所領を質に入れて流したり、売買したりすることは、御家人らの困窮の原因である。今後は(所領の質入れや売買を)禁止する。これまでに売却した分については、売ったもとの所有者(御家人)が領有しなさい。ただし買った後に將軍家の下文や下知状くだしづみ げちじょうをいただいたり、支配後二〇年を経過したものについては、幕府から与えられた恩領か私領にかかわらずなく、今さら現状を変更することはしない。…

…

つぎに、御家人以外の武士や庶民が質流れによって得た土地や買った土地については、二〇年の年限を経過していたとしても、売主(御家人)のものとする。

(『東寺百合文書』)

悪人正機——『歎異抄』

「善人でさえも極楽ごくらくに往生おうじょうするので、悪人が往生できないはずはありません。ところが、世間の人は一般に『悪人でさえ往生するのだから、どうして善人が往生できないことがあるのか』とっています。このいい分はひとまずはもつともであるように思われますが、阿弥陀仏あみだぶつの本願ほんがんである他た力りきによる救いの考え方には反しています。その理由は……阿弥陀仏の救いを求める悪人こそが、往生できるもつとも正しい条件を備えているのです。そこで、善人でも往生するので

すから、まして悪人は(往生できないはずがないのです)「と(親鸞しんらんは)おっしゃったのである。

二条河原落書

近頃京都に流行しているものは、夜討ち、強盗ごうとう、いつわりの繪旨りんじ、それに囚人、急使の早馬はやうま、たいしたことでもないのにおきる騒ぎ、切られたばかりの首、俗人に戻る僧侶、勝手に出家しゅっけする俗人。急に大名だいみょうに出世する者、逆に路頭に迷う者、本領安堵あんどや恩賞おんしょうを目当てに、実際にはしてもいないのに戦きをしたという者もいる。所領を没収された人が訴訟をおこし、証拠書類の入った細葛ほそつづらを背負ってやってくる。おべっかを使う者、人を悪くいって訴える者、禅僧・律僧(は

政治に関与し)、下剋上げこくじょうをして成り上った者もいる。能力の有無を調べることなく、誰彼となく任用する雑訴決断所ざつそけつだんしよ。つけなれない冠や高級な衣裳を着て、もちなれない笏しやくをもつて、内裏での交際をするのもこっけいだ。……京の公家風と鎌倉の武家風とをごちゃまぜにし、全員の調子がそろわない怪しげな連歌会れんが、いたるところでおこなわれる歌詠みの連歌会では、誰もが判定者になるといった具合。

(『建武年間記』)

一三五二年の半済令

一、寺社本所領のこと 観応三(一三五二)年七月二十四日の
通達……つぎに、おうみ近江・みの美濃・おわり尾張の三方国の本所領の半
分については、ひょうかうりようしよ兵糧料所として、今年一年の收穫に限り、
(守護の)軍勢に預けおくことを守護人に通知した。残りの
半分については、本所に渡しなさい。

(『建武以来追加』)

惣掟

今堀村の定めた村法

延徳元(一四八九)年十一月四日に決定。

- 一 3、薪・炭は惣のものを焚くこと。
- 一 5、惣の屋敷を借りて村人でない者を住まわせてはならない。
- 一 7、他所の者は惣の身元保証人がいなければ、住まわせてはならない。
- 一 8、惣の土地と自分の土地の境界争いは金銭ですますこと。

- 一 16、家を売った者は一〇〇文につき三文ずつ、一貫文につき三〇文ずつ惣へ出すこと。違反した村人は宮座の構成員から除名する。

- 一 20、堀より東に屋敷を建ててはいけない。

(『今堀日吉神社文書』)

正長の徳政一揆

(正長元(一四二八)年)九月 日。一天下の土民が一斉に蜂起した。「徳政だ」と叫んで、酒屋・土倉・寺院などを襲って破壊し、質入れた物品などを思うままに略奪し、借金証文などをすべて破り捨てた。管領(畠山満家)がこれを取り締まった。総じて国が亡びる始めとして、これ以上の事件はない。日本の国が始まって以来、土民たちが立ちあがったというのは、これがはじめてのことである。

(『大乘院日記目録』)

山城の国一揆

今日(文明十七(一四八五)年十二月十一日)、山城の国人やましろうこくじんが集会をした。その年齢は上が六〇歳、下が一五、六歳という。同じく山城国中の土民どみんたちが群れ集まった。今度の(畠山)両陣への対応を相談して決めるためだという。もつともなことであろう。ただし、これは下剋上げこくじやうがきわまつたものだ。

今日(文明十八(一四八六)年二月十三日)、山城の国人が平等院びやうどういんで会合した。山城国中を統治するための掟おきてを定める

のだという。まことに感心なことだ。ただし、これ以上国人の勢力がさかんになると天下のためにはよくないことになるだろう。

(『大乘院寺社雑事記』)

加賀の一向一揆

私は今月（長享二（一四八八）年六月）五日に越前えちぜんの府中ふちゆうに行った。その前に越前えちぜんの朝倉あさくら氏の援軍えんぐんが加賀かが国こくへ向かって出発しゅつぱつしていた。しかし、一向一揆いっけいの軍勢ぐんせい二〇万人にじゅうまんにんが富樫とがし氏の高尾城たこうじょうを包囲たうゐした。そのため今月九日には城は攻め落とされた。城中じゆうちゆうの富樫とがし一族いちぶの者は皆殺みなころされて、一向一揆側いっけいは富樫とがし一族いちぶの者一人ひとりを加賀国かがこくの守護しゆごにとりたてた。

（『蔭涼軒日録』）

加賀の名目上の守護しゆごとなった富樫とがし泰高たかは、百姓ひやくしやうによって擁

立された者であるから、だんだんと百姓ひやくしやうの力が強くなって、近頃きんぎん、加賀国かがこくは百姓ひやくしやうの支配しはいしている国こくのようになってしまった。

（『実悟記拾遺』）

家法・分国法

一、わが朝倉の城郭あきくらのほかに、領国内に城郭を構えさせてはならない。すべて所領のある者は、一乗谷いちじょうだにに移り住み、郷村ごうそんには代官だいかんだけをおくべきであること。

(『朝倉孝景条々』)

一、喧嘩けんかのことについては、どちらがよいか悪いかにかわららず、罪科とする。ただし(相手から)しかけられたけれども怒りをこらえた者については、処罰しない。

(『甲州法度之次第』)

一、駿河すまが・遠江とわとうみ両国の(今川氏の家臣の)者は、あるいは勝手に他国から嫁をとったり、あるいは婿むこを迎えたり、娘を(他国へ嫁に)やることは、今後は禁止することにした。

(『今川仮名目録』)

一、農民が地頭じとうに年貢ねんぐや雑税を納入せず、他の領主の所領へ逃げ込んだ場合には、盗人ぬすびととして処罰する。

(『塵芥集』)

自由都市堺について(ガスパル・ヴィレラ書簡)

堺さかいの町はたいへん広く、富裕な商人が多数いる。この町はイタリアのヴェネツィアのように会合衆かいごうしゅうという執政官しつせいかんによっておさめられている。

(一五六一〈永禄四〉年書簡)

日本全国でこの堺の町よりも安全なところはない。他国では合戦かっせんがあるが、この町には合戦のあつたことはなく、他国の合戦で敗れた者も勝った者も、この町に移住すると皆平和に暮らし、皆仲良くし合い、他人へ危害を与える人もいない。

…堺の町はたいへん防備がしっかりしていて、西の方は海があり、またその他は深い堀によって囲まれ、それにはいつも水が満されている。

(一五六二〈永禄五〉年書簡)

(『耶蘇会士日本通信』)

NHK for School

安土城跡



この資料は上の画像をクリックして遷移先の外部サイトで参照してください

(教科書名入る) p.110

安土城跡

YJHE102900

提供元 : NHK for School

刀狩令

条々

一、諸国の百姓が、刀・脇指・弓・槍・鉄砲、その他の武器の類を所持することをかたく禁止する。その理由は農耕に不要な武器をもち、年貢やその他の税を出し渋り、もしも、一揆を企て、給人に対してけしからぬ行為をするような者は、当然処罰される。

一、右のように集めた刀・脇指は無駄にするのではなく、今度、大仏を建立するにあたって、その釘や鋸につくり

なおすのである。そうすれば、現世はいうに及ばず、来世までも百姓は助かるのである。

一、百姓は農具だけをもち、耕作に専念すれば、子々孫々まで長く安泰である。

天正十六（一五八八）年七月八日

（秀吉朱印）

（『小早川家文書』）

バテレン追放令

定

- 一 1、日本は神国であるのに、キリシタンの国から邪悪な教え(キリスト教)を布教することは、非常によろしくないことである。
- 一 2、(大名もしくはバテレンが)自分の国郡の者にすすめて信者にし、神社仏閣を壊しているということであるが、前代未聞である。
- 一 3、宣教師は、その教義やいろいろな知識をもって人びと

に布教し、人びとは自分の意思で信者になつていと秀吉公は思われていたが、右のように(強制的に信者をふやしたり)、日本の仏教を破壊したりしていることはけしからぬことであり、これでは宣教師を日本においておくことはできない。したがって今日より二〇日間以内に準備をして帰国するように。

一 4、黒船(ここではポルトガル船)については商売が目的なので特別である。以後、年月を経てもいろいろと売買をするように。

天正十五（一五八七）年六月十九日

（『松浦文書』）

国立歴史民俗博物館 江戸図屏風



この資料は上の画像をクリックして遷移先の外部サイトで参照してください

(教科書名入る) p.122

江戸図屏風

YJHE103000

提供元：国立歴史民俗博物館

武家諸法度(元和令)

一、文武弓馬ぶんぶきまの道みち(学問と武道)に、ひたすら励むようにせよ。

一、諸国の居城きじょうはたとえ修理であつても必ず幕府に報告せよ。まして、新規に築城することは嚴重に禁止する。

(『御触書寛保集成』)

武家諸法度(寛永令)

- 一 2、大名・小名が国元と江戸とを参勤交代さんきんこうたいするよう定めるものである。毎年夏の四月中に江戸へ参勤せよ。参勤の際の大名の従者の人数が、近年たいへん多くなっている。これは領国や郡の無駄な出費であり、また領民の負担となる。以後は、各自の格式に応じて従者を減らすこと。
- 一 17、五〇〇石積み以上の船をつくることは禁止する。

(『御触書寛保集成』)

禁中並公家諸法度

- 一 1、天皇がおさめなければならぬ諸芸能の第一は政治・統治の学問である。
- 一 2、朝廷での序列は、摂家せつけのなる三大臣、その下に親王しんのう(宮家)と定める。
- 一 7、武家に与える官位は、公家の在官者とは別に独自に扱うこととする。
- 一 16、紫衣しえを許される寺の住職は、以前はきわめて少なかった。しかし、近頃はみだりに勅許ちゆきょされている。これは僧

侶の序列を乱し、官寺の名誉を汚すもので、はなはだけしからぬことである。

(『大日本史料』)

一六四二(寛永十九)年五月の村々への法令

- 一 1、祭礼さいれいや仏事ぶつじなどを華美におこなってはならない。
- 一 2、男女の衣類については、以前からの法令で定めているように、庄屋しょうやは絹紬きぬつむぎ・麻布あし・木綿もめんを着てもよい。それ以外の百姓は、麻や木綿のみを着ること。麻や木綿以外は、えりや帯などであっても用いてはならない。
- 一 4、身分にふさわしくない家は、今後つくってはならない。
- 一 5、幕領・大名領ともに、本田畑にはたばこを栽培してはいけない。

(『御当家令条』)

一六四三(寛永二十)年三月の田畑永代売買を禁ずる法令

一³、暮らし向きのない百姓は、田地を買い取ってますます裕福になり、生活の苦しい百姓は田畑を売却せざるをえず、さらに暮らし向きが成り立たなくなるので、今後、田畑の売買は禁止する。

(『御触書寛保集成』)

寛永十二年禁令

- 一 1、外国へ日本の船を派遣することは嚴重に禁止する。
- 一 2、日本人を外国へ渡航させてはならない。もし、密航する者があれば、その者は死罪、船と船主は留めおいて幕府へ報告すること。

(『教令類纂』)

寛永十六年禁令

一、日本国が禁止しているキリスト教について、禁止と知りながらキリスト教をひろめる者が今でもひそかに日本へやって来ている。

……今後、ポルトガル船の来航はこれを禁止する。これ以後来航してきた場合は、その船を破壊し、乗組員は即座に処刑する旨、(将軍が)命じられた。

(『御当家令条』)

武家諸法度(天和令)

- 一 1、学問・武芸・忠孝に励み、礼儀を正しくするようにせよ。
- 一 12、(実子のいない大名だいまやう)の養子は同姓(一族)の者から、ふさわしい者を選び、もしふさわしい者がいない場合は、(候補の者ゆいしよ)の由緒ゆいしよをたしかめ、大名自身が生きているうちに報告せよ。五〇歳以上・一七歳以下の大名りんじゆうが臨終りんじゆうにのぞんで養子を決める場合でも、他の一族がよく当人の資質を調べた上で養子に立てるようにせよ。たとえ、実の子で

も、筋道の違う者は跡継ぎに立ててはならない。

付則、殉死じゆんしはいつそう厳しく禁止する。

(『御触書寛保集成』)

大名の窮乏

近頃の大名は石高の多少によらず、その藩の経費をまかなえず困窮することが多くなっている。大名が家臣の俸禄を借りると唱えて（支給しないことがあり、大名の中には）少ないもので俸禄の一〇分の一を削減し、大きく削減する大名は俸禄の一〇分の五〜六を支払わない。それでも足りないので、領民より金を徴収して急場をしのいでいる。それでもなお足りないないので、江戸・京都・大坂の大商人から借金することが年々多くなっている。借りるばかりで返済がほとんどない

め、利子が利子を生み、積もり積もった借金は、初めの借金の何倍になってしまったかもわからない状況である。

（『経済録拾遺』）